

県営農免農道整備（高山地区）事業に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

# 松 原 遺 跡

1993年3月

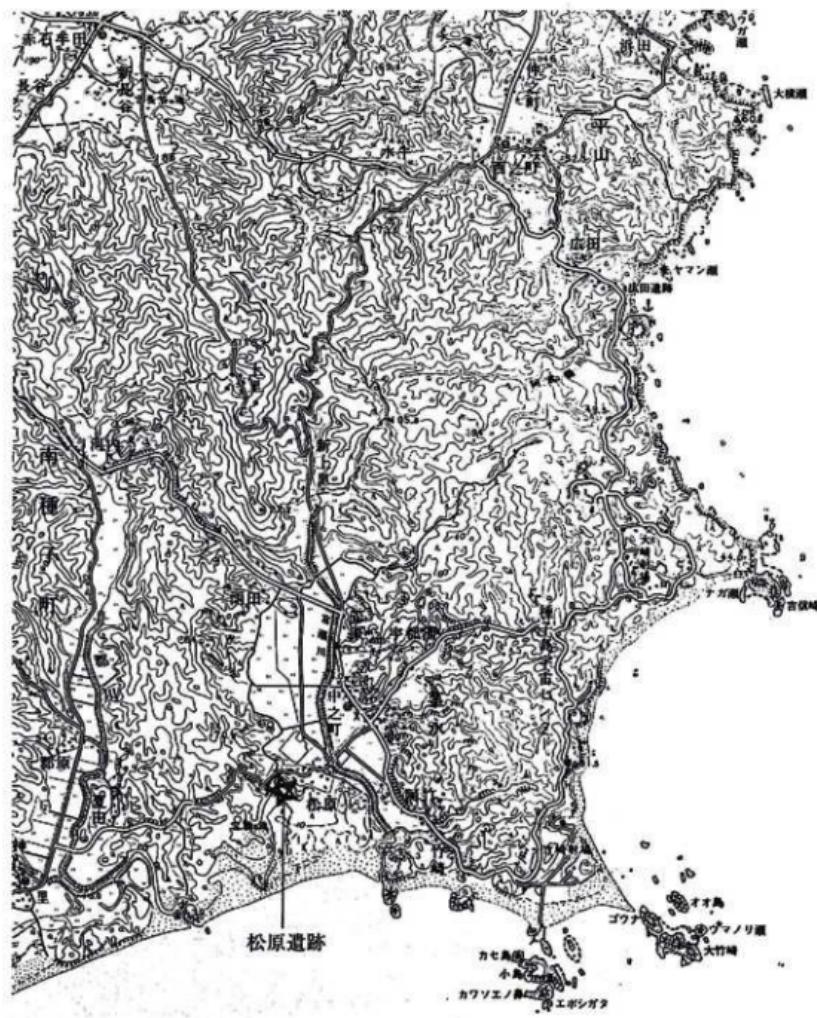
鹿児島県熊毛郡南種子町教育委員会





## 報告書抄録

フリガナ	マツバライセキ				
書名	松原遺跡				
シリーズ名	南種子町埋蔵文化財発掘調査報告書				
シリーズ番号	4				
編著者名	戸崎勝洋・立神次郎・熊崎明恵				
編集機関	南種子町教育委員会				
所在地	〒891-37 熊毛郡南種子町中之下2793				
発行年月日	1995年3月31日				
フリガナ	マツバライセキ				
所収遺跡名	松原遺跡				
フリガナ	クマゲゲン ミナミタネチョウ クキナガ				
所在地	熊毛郡南種子町茎永（堤ノ小田）3790番地ほか				
調査期間	1992.09.28~10.02, 1992.12.14~12.25				
調査面積	570m <sup>2</sup>				
調査原因	県営農免農道整備（高山地区）事業				
出土 遺物 ・ 遺構 等	主な時代	主な遺構	主な遺物	出土量	特記
	縄文時代	集石遺構3基	後期土器・市来式土器 丸尾式土器  晚期土器  石 器・・磨製石斧 磨石、蔽石	パンケース10  パンケース2  パンケース2	
古代		土師器 須恵器 青磁器	パンケース7		



第1図 松原遺跡の位置図

## 例　　言

1. 本報告書は、平成4年度に実施した県営農免農道整備（高山地区）事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、鹿児島県農政部（熊毛支庁土地改良課）の依頼を受けて、南種子町教育委員会が実施した。
3. 調査は、南種子町教育委員会が調査主体となり、発掘調査は、鹿児島県立埋蔵文化財センターが担当した。
4. 本報告書の執筆・編集は、戸崎勝洋・立神次郎・熊崎明恵が担当し、河口貞徳氏（鹿児島県文化財保護審議会委員）の有益な指導と助言をいただいた。
5. 本書で用いたレベル数値は、海拔絶対高で、挿図中の遺物番号は図版中の番号と一致する。
6. 本書で用いた地図は、鹿児島県所有と南種子町所有のものを使用した。
7. 出土遺物の管理・保管は、南種子町教育委員会で一括して取り扱っている。
8. 集石遺構のうち、2号集石遺構については移設を実施し、郷土館に公開展示している。

# 本文目次

序文	
報告書抄録	
例言	
目次	
第Ⅰ章 調査の経過	1
第1節 調査に至るまでの経過	1
第2節 調査の組織	1
第3節 調査の経過	2
第Ⅱ章 遺跡の位置と環境	5
第1節 遺跡の位置及び地形	5
第2節 歴史的環境	6
第Ⅲ章 発掘調査	10
第1節 確認調査の概要	10
第2節 発掘調査の概要	15
第3節 層序	16
第Ⅳ章 縄文時代	19
第1節 調査の概要	19
第2節 遺構	19
第3節 出土遺物	21
第Ⅴ章 歴史時代	31
第1節 土師器	31
第2節 須恵器	31
第3節 青磁器	31
第Ⅵ章 調査のまとめ	47
* 第1節 縄文時代	47
* 第2節 歴史時代	47

# 挿図目次

第1図 松原遺跡の位置図	
第2図 周辺遺跡	8
第3図 松原遺跡の周辺地形及びグリッド・トレンチ配置図	11
第4図 各トレンチ遺物出土状況及び土層断面図	12
第5図 出土土器実測図（1）	13

第6図	出土土器実測図（2）	14
第7図	出土土器実測図（3）	15
第8図	遺物出土状況及び土層断面図	17~18
第9図	集石実測図	20
第10図	出土土器実測図（4）	22
第11図	出土土器実測図（5）	22
第12図	出土土器実測図（6）	24
第13図	出土土器実測図（7）	25
第14図	出土土器実測図（8）	26
第15図	出土土器実測図（9）	27
第16図	出土土器実測図（10）	28
第17図	出土土器実測図（11）	29
第18図	出土土器実測図（12）	30
第19図	出土石器実測図（1）	32
第20図	出土石器実測図（2）	33
第21図	出土石器実測図（3）	34
第22図	出土土器実測図（13）	35
第23図	出土土器実測図（14）	36
第24図	出土土器実測図（15）	37
第25図	出土土器実測図（16）	38
第26図	出土土器実測図（17）	39
第27図	出土土器実測図（18）	40
第28図	出土土器実測図（19）	41

## 表 目 次

第1表	周辺遺跡地名表	9
第2表	出土土器観察表（1）	42
第3表	出土土器観察表（2）	43
第4表	出土土器観察表（3）	44
第5表	縄文時代の石器観察表	44
第6表	歴史時代の遺物観察表（1）	45
第7表	歴史時代の遺物観察表（2）	46

## 図 版 目 次

図版1	松原遺跡遠景・発掘調査風景	49
図版2	発掘調査風景・遺物出土状況	50
図版3	1・2・3号集石遺構	51
図版4	遺物出土状況・移設作業風景	52
図版5	遺物出土状況	53
図版6	縄文土器	54
図版7	縄文土器、土師器坏	55
図版8	縄文土器	56
図版9	土師器坏、須恵器	57
図版10	磨製石斧、磨石・石斧、敲石	58

# 第Ⅰ章 調査の経過

## 第1節 調査に至るまでの経過

鹿児島県教育委員会では、埋蔵文化財包蔵地の実態を把握するため必要に応じて分布調査を各地区ごと及び諸開発ごとに実施し、多くの遺跡が発見されている。

鹿児島県教育委員会及び南種子町教育委員会は、文化財保護・活用を図るために諸開発関係機関と、事業着手前に文化財の有無等について協議し開発との調整を図っている。

この事前協議制に基づき、鹿児島県農政部（熊毛支庁土地改良課）は、南種子町茎水地内において県営農免農道整備（高山地区）事業の計画にあたり、事業計画区域内の埋蔵文化財の有無について鹿児島県教育庁文化課（以下、県文化課）に照会した。

これを受けて県文化課は、当該地区的埋蔵文化財の分布調査を平成2年に本町教育委員会をはじめ、鹿児島県農政部（以下、熊毛支庁土地改良課）、南種子町農地整備課の四者で実施した。その結果、松原遺跡が所在していることが確認された。

そこで、松原遺跡の取り扱いについて、本町教育委員会をはじめ関係機関で協議した結果、同事業の着手前に確認調査を実施する運びとなった。確認調査は、平成4年9月28日から10月2日までの実働5日間において実施し、1・2・3・5・7トレーナーより奈良・平安時代の土器（壺・椀・皿）や須恵器、縄文時代の市来式土器が出土した。

確認調査の結果、遺物包含層が確認された地点は宝満神社に隣接する県道への取り付け付近に所在しているために、地元をはじめ関係機関より、今年度内の事業推進の希望が強く、その取り扱いについて、県文化課、熊毛支庁土地改良課、本町教育委員会などの関係機関と協議を重ねた結果、今回、約570m<sup>2</sup>について記録保存のための発掘調査を実施する運びとなった。

## 第2節 調査の組織

事業主体 鹿児島県農政部（熊毛支庁土地改良課）

調査主体 南種子町教育委員会

調査責任者 南種子町教育委員会 教育長 川田 孝雄

調査事務 ◉ 社会教育課長 崎田 宏

◉ 社会教育係長 上田 和信

◉ 主事 日高 孝之

◉ 主事 日高みどり

調査担当者 県立埋蔵文化財センター主任文化財主事

兼調査課長 戸崎 勝洋

◉ 文化財主事 立神 次郎

◉ 文化財研究員 熊崎 明恵

調査指導者 鹿児島県文化財保護審議会委員

河口 貞徳

### 第3節 調査の経過

松原遺跡は、平成2年度の分布調査により発見された遺跡で、平成4年9月28日から10月2日までの実働約5日間において確認調査を実施した。その結果、場所により縄文時代後期の市来式土器をはじめ歴史時代の土師器を中心に須恵器や青磁なども出土した。

本遺跡は確認調査により遺物包含層が確認された。そこで、県道への取り付け付近に遺跡が所在しているために、地元をはじめ関係機関により今年度内の事業推進の希望が強く、協議が重ねられた結果、同事業区域内のうち約570m<sup>2</sup>について記録保存のための調査を実施する運びとなった。調査は、本町教育委員会が調査主体となり、発掘調査を鹿児島県立埋蔵文化財センターに依頼し、平成4年12月14日から平成4年12月25日までの実働10日間において実施した。

以下、確認調査および記録保存のための調査については日誌抄をもってかえる。

確認調査は、現道敷の隣接地に任意に2×3mのトレンチを基本に、場所によっては作付けの関係で一部トレンチを変更し、1~7トレンチを設定して調査を実施した。

#### 【確認調査】

9月28日

本日より調査を開始する。道路拡張部分において、草木下払い作業を実施する。1~3トレンチを設定し、各トレンチとも表土層より掘り下げる。1・2・3トレンチより土師器を中心に須恵器などの破片が出土する。特に、3トレンチにおいては土師器、黒色土器、須恵器などの破片が多く見られる。

9月29日

4~6トレンチを設定し、掘り下げた結果、4トレンチは水田跡地のために、表土直下が礫を含んだ泥炭層となり湧水が著しい。5・6トレンチは耕作土内より土器破片が見られたものの2層下位より遺物の出土はなかった。1・2・3トレンチは、掘り下げの結果、土師器や黒色土器を中心に須恵器などの破片が多く出土する。各トレンチともに精査作業後出土遺物出土状況写真撮影、平板実測作業、レベル実測作業、遺物取り上げ作業を実施する。

9月30日

7トレンチを設定し、表土層より掘り下げる。土師器の小破片が数点出土する。1~3トレンチは、さらに下位について掘り下げ、土師器、黒色土師器、須恵器などの破片が出土する。特に、3トレンチは出土量が多い。その後、精査作業後遺物出土状況写真撮影、平板実測作業、レベル実測作業、遺物取り上げ作業を実施する。

10月1日

1・2・3トレンチは、2トレンチ外は土師器、黒色土師器、須恵器などの小破片が多く出土する。1トレンチは北側へ約1mを拡張し掘り下げる。各トレンチとともに精査作業後遺物出土状況写真撮影、平板実測作業、レベル実測作業、遺物取り上げ作業を実施し、さらに下位について掘り下げる。2・5~7トレンチは、土層断面精査作業、写真撮影、土層断面実測作業後埋め戻し作業。

10月 2日

1・4 トレンチは、土層断面精査作業、写真撮影、土層断面実測作業後埋め戻し作業。3トレンチは、さらに下位について掘り下げた結果、土師器や縄文土器（市来式土器）が混在して出土する。掘り下げ後、遺物出土状況精査作業及び遺物出土状況写真撮影、平板実測作業、レベル実測作業、遺物取り上げ作業、土層断面精査作業、写真撮影、土層断面実測作業後埋め戻し作業。トレンチ配置図平板実測作業。本日で確認調査を終了。

発掘調査は、確認調査の結果、歴史時代と縄文時代後期を中心とする遺物包含層が確認された。同事業区域内のうち約570m<sup>2</sup>については、記録保存のための調査を実施する運びとなった。調査は平成4年12月14日から平成4年12月25日までの実働10日間において実施した。 [全面調査]

12月 14日

発掘調査を本日より実施する。プレハブ事務所設置。発掘器材・器具搬入作業。作業員に對して発掘調査上の留意事項について注意やお願いを行なう。農免農道建設予定地幅杭設定作業及び隣接地を仮設道や排土置場とする。当面拡張部分について表土より掘り下げ作業土師器及び市来式土器などの小破片が出土する。熊毛支庁土地改良課堂免氏来跡。

12月 15日

拡張部分について掘り下げ作業を実施する。土師器、須恵器及び市来式土器などの小破片が出土する。現遺敷部分の砂利等について重機及びダンプにより撤出作業。グリッド設定作業。A-3～6区について撤出作業後残土処理作業。熊毛支庁土地改良課堂免氏来跡。

12月 16日

A-1～6区について撤出作業後残土処理作業。A-3～6区について掘り下げ作業。A-3区、遺物包含層の大半が削平を受けているが、A-4区側からの遺物包含層の延長を確認する。土器小破片が多く、同区の東側部分には縄文土器（市来式土器など）が集中し、中には磨製石斧、ノミ形石斧、磨石、敲石等の石器のほか、土師器、須恵器なども出土する。A-5・6区は土器の破片が多いものの出土量もかなりあり、縄文土器、土師器、須恵器などが混在して出土する。川田教育長ほか3名が来跡。

12月 17日

A・B-1・2区について撤出作業後残土処理及び掘り下げ作業。土器小破片が出土したが、攪乱部分が多い。A-3～6区については、出土状況の精査作業後遺物出土状況写真撮影、平板実測作業、レベル実測作業、遺物取り上げ作業を実施する。さらに、各区ともに下位について掘り下げる。熊毛支庁土地改良課長・係長ほか2名来跡。

12月 18日

A-1、B-1・2区、A-3～6区について掘り下げ作業。各区の出土状況精査作業、遺物出土状況写真撮影、平板実測作業、レベル実測作業、遺物取り上げ作業。さらに、下位について掘り下げる。A-3～6区については土師器、須恵器、市来式土器などの土器が混在

した状況で出土するが、主体的には市来式器が若干下位から出土する。A-4区より集石構を検出す。小さい疊が主体を占めるが、集石内には土器破片の混在をも認める。

12月21日

A-3～6区について掘り下げ作業。特に、A-3・4区については、出土状況の精査作業、遺物出土状況写真撮、平板実測作業、レベル実測作業、遺物取り上げ作業を実施する。さらに、各区とも下位について掘り下げる。土師器、須恵器、縄文時代晩期土器片、後期の市来式土器が混在した状況で出土する。市来式土器の出土状況の範囲は、A-5区にも出土するが、現在ではA-3区東側分などに集中が見られ、集石遺構の掘り下げ作業。

12月22日

A-4～6区について掘り下げ作業。各区の出土遺物について出土状況の精査作業、遺物出土状況写真撮、平板実測作業、レベル実測作業、遺物取り上げ作業を繰り返す。遺物の出土状況は土師器、須恵器、市来式土器などが混在して出土する。A-5区の出土状況は全体的に出土するが、特に、A-6区側とA-4区側に集中するようである。A-4区の集石遺構の掘り下げ作業。破碎した小さい疊を多量に用い、焼石も認める。また、集石内に無文の土器片を2～3ヶ所に確認する。集石の規模は160×150cmのほぼ円形の形状で、石の重なりはあまりなく平面的な堆積である。（集石I）

12月23日

A-4～6区について掘り下げ作業。各区の出土遺物について出土状況の精査作業、遺物出土状況写真撮、平板実測作業、レベル実測作業、遺物取り上げ作業を繰り返す。遺物の出土状況は土師器、須恵器、市来式土器などが混在して出土する。A-5区の出土状況は全体的に出土する。A-4区で集石遺構の掘り下げ作業後平・断面実測（集石I）。A-5区で集石遺構を検出す。集石遺構の掘り下げ作業。集石の規模は75×80cmのほぼ円形の形状で、石の重なりはない。（集石II）

12月24日

A-5・6区について掘り下げ作業。出土遺物について出土状況の精査作業、遺物出土状況写真撮、平板実測作業、レベル実測作業、遺物取り上げ作業を繰り返す。遺物の出土状況は土師器、須恵器、市来式土器などが混在して出土するが遺物量は少なくなる。A-5区の集石遺構について平・断面実測（集石II）。A-5区で集石遺構を検出す。集石の規模は50×45cmのほぼ円形の形状で、石の重なりはない。集石遺構について平・断面実測（集石III）。遺跡説明会（町民センター）を実施。

12月25日

A-5・6区について掘り下げ作業。出土遺物について出土状況の精査作業、遺物出土状況写真撮、平板実測作業、レベル実測作業。A-5区の集石遺構は道路建設予定地幅寄りで石の重はない。土層断面写真撮影・実測作業。本日で調査終了。熊毛支庁土地改良課係長・担当来跡。発掘器材・器具搬出作業。

## 第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

### 第1節 遺跡の位置及び地形

松原遺跡の所在する南種子町は、鹿児島県熊毛郡南種子町茎永に所在する。

種子島は九州島の約50km南方海上にある南北約52km、東西6~12kmの細長い島で、その地勢は基本的に隆起運動と、その後の侵食作用により形成されている。地質は、基盤が古第三紀の熊毛層群からなり、中部から南部にかけてはこの基盤上に、新第三紀の茎水層群や増田層、第四紀洪積世の長谷層が覆っている。行政的には北から西之表市、中種子町、南種子町の一市二町に区分されている。構造的には、琉球弧の外帯北端部を占める位置にあり、本島の長軸は北北東より南南西の方向にある。西之表市の北端御崎から南種子町の南端門倉岬までは、約57.5kmを測り、島の幅は北部の西之表地区と南部の南種子地区で広く、中央部の中種子地区で狭くなっている地勢である。北部の住吉一大野間で約11.8km、中央部の野間付近で約5.7km、南部の島間一浜田間で約13.2kmをそれぞれ測る。島の最高所は282.3mを測る低平であり、200m以上を測る地域は限られた極狭い範囲で、全島が緩やかな台地状を呈している。

本遺跡の所在する南種子町はこの島の南部に位置し、東側や南側及び西側の三方は海に囲まれ、北側は中種子町と接する面積約110.22km<sup>2</sup>人口約8,300人の町で、全国的には鉄砲の伝来とロケットの町として知られている。

南種子町の地形は、島の南部地域の一部をなし、北部の西之表市や中種子町とに比較すると変化に富んでいる。町の北部から中央部付近は海拔180~200m内外の丘陵地帯で起伏の多い地形を呈しているが、随所に平坦な台地をもち、平坦地は草地や耕作地として利用されている。西海岸は、島間から大川・砂坂・下西目・門倉にかけては海岸段丘が発達し、高度約100mの段丘がいちばん顕著であり、海岸線に沿って南北にびている。さらに、下位には高度約60mの段丘面にそれぞれの集落を形成し、中央の台地とは急傾斜によって分けられている。

一方、東海岸は、著しく開析をうけた100m以下の台地で、谷系の発達が著しく、西海岸と違って海岸段丘の発達はみられないが、急崖をなして海に面し、波の侵食によって奇岩や海食洞などすばらしい景観をつくり出している。

南海岸には、宮瀬川・郡川・鹿鳴川などによってつくり出された沖積平野が広がり、島内でも最も広域な水田地帯が形成されている。また、海岸には新旧の砂丘が発達している。茎永の宝満の池は、島内でいちばん大きい淡水湖であるが、川が砂丘によって堰止められた堰止め湖である。

本遺跡は、この南部海岸の宝満の池に隣接した宝満神社を含めた地域に所在し、茎永の水田地帯と海岸よりのびている旧砂丘地との隣接地付近にある。また、この地は宝満神社の御田植えまつりとして名を馳せ、赤米の栽培地（御神田）とも相接している。

## 第2節 歴史的環境

この節での歴史的環境は、旧石器時代から古墳時代までの周辺遺跡について取り扱いたい。熊毛諸島では、旧石器時代から古墳時代までの周知の遺跡が312ヶ所が確認されている。うち、南種子町の遺跡は、旧石器時代が1ヶ所、縄文時代が22ヶ所、弥生時代が6ヶ所、古墳時代が2ヶ所、中世が6ヶ所の内訳である。

この熊毛諸島の古代遺跡はきわめてはやい時期から、南九州を含む本土をはじめ熊毛諸島以南の島々から縄文文化や弥生文化の影響を受けて成立し、なかには中国大陆との交流が考えられる遺跡も周知されている。これまでの熊毛諸島における考古学的研究は、明治時代に若林勝邦氏の「種子島及び大島の石斧」や佐藤伝蔵氏の「屋久島の石斧」などにより始められ、昭和20年代には三友国五郎・国分直一・河口貞徳・盛園尚孝の各氏により西之表市の本城遺跡、上屋久町の一湊遺跡、口永良部の城ノ平遺跡、中種子町の苦浜貝塚・輪之尾遺跡、本町の長崎一陣貝塚など、昭和30年代になると、中種子町の鳥ノ峯遺跡、広田遺跡などの調査が行なわれている。その後、は場整備事業の施工に伴う発掘調査が実施され、先史時代の様相が明らかになりつつある。このように先史時代の遺跡については、盛園尚孝氏や旭慶男氏等の努力により次第に解明されてきた。

以下、本町の古い時期の遺跡から見てみたい。

旧石器時代では、横峯C遺跡があげられる。本遺跡は、西に屋久島を望む標高約120mの台地にあり、平成4年11月の農地整備事業に伴って発掘調査が行なわれた。本遺跡からは遺物の出土はなかったが、遺構として、始良カルデラ起源の「薩摩」の下にある層で、一般に「タネIV」といわれる火山灰層の下から角礫による礫群2基が検出された。この遺構は人為的なものとされ、県下はもとより国内でも古い遺構であると考えられている。

縄文時代の早い時期の遺跡として、永谷山遺跡、横峯C遺跡、田代遺跡、小牧遺跡、平六間伏遺跡、赤石牟田遺跡、長谷遺跡などが知られ、縄文時代後期の遺跡として、上瀬田遺跡、上瀬田A遺跡、上瀬田B遺跡、野大野A遺跡、田尾遺跡、本村丸田遺跡などが、縄文時代晩期の遺跡には長崎鼻一陣貝塚が知られている。

永谷山遺跡は、長谷の舌状に張り出した台地尾根の先端近くで、東西両側は急崖をなし谷となっている。新長谷から上里集落にむかう道路沿いの畑地にあり、長谷の池南方個約1kmの地点で標高約160kmを測る。遺物は植林のための整地によりアカホヤ層の下から吉田式土器が出士している。

横峯C遺跡は、旧石器時代のほか、鬼界カルデラ起源のアカホヤ火山灰の直下から縄文時代早期の遺物や集石遺構6基が検出された。出土した土器は從来前期に位置づけられていた苦浜式土器といわれ、条痕文に瘤や突起をもつ土器である。石器としては、石鏃、石匙、磨石、凹石、敲石、石皿などが出土している。

田代遺跡は、本町の南部西之田代に位置し、田代神社の西方約400mの畑地にある。遺物はは場整備後に編目状撲糸文と貝殻文を組み合わせた塞ノ神式土器などが出土している。

小牧遺跡は、上中の標高約130mを測る中央台地に位置し、縞目状撚糸文と単軸絡繩文第2類に類似すると思われる施文原体の撚糸文をもつ塞ノ神式土器や磨石、敲石などの遺物が出土している。

平六間伏遺跡は、本町の北西部の海岸段丘の奥まった標高約102mを測る台地で、台地の北縁辺部の谷に接する地点に位置し、夷B式土器、瀬ノ上遺跡出土のⅦ類似土器、条痕文土器などの遺物が出土している。

赤石牟田遺跡は、新長谷から上里集落にむかう道路沿いの畠地にあり、永谷山遺跡の北西約500mの地点で、標高約180mの南向きの緩傾斜面の畠地に位置し、畠地の南北側は谷に続いている。遺物は整地後に、塞ノ神式土器、曾畠式土器、夷式土器などや石錐（未製品を含む）、石匙、磨製石斧などが出土している。特に、黒曜石製石錐は薄片とともに未製品も出土している。

長谷遺跡は、赤石牟田遺跡の南側で、中ノ上長谷の標高約186mを測る台地に位置し、吉田式土器、弥生式土器などが出土している。

上瀬田遺跡は、野大野から官三牧へ至る道路沿いで、立石入口バス停南西200mの地点の標高約80mを測る海岸段丘線の畠地に位置し、西側は急崖となり海岸となっている。指宿式土器や市来式土器などが出土している。

田尾遺跡は、島間田尾にあり、舌状に張り出した砂丘台地の先端部の標高約40mの池龜春喜氏宅地周辺に位置している。遺物は、市来式土器、松山式土器、納曾式土器、一湊式土器などの土器や石皿、敲石、磨製石斧、打製石斧などの石器が出土している。

本村丸田遺跡は、西之本村丸田50~80番地にあり、門倉岬から北北西へ直線距離で2km、役場から南へ直線距離で約5kmの地点にある三差路北西側の標高約28.7mの丘陵末端に位置し、東側は下中冲積低地がひろがり太平洋を見ることができる。本遺跡は、昭和60年3月と8月に学術調査として本教育委員会が実施した。調査の結果、遺構として掘立柱建物跡、遺物としては曾畠式土器、指宿式土器、市来式土器、市来式系土器、弥生式土器、土師器、須恵器、青磁、白磁、染付け、薩摩焼などの土器類、打製石斧、磨石、石皿、凹石、磨製石斧などの石器などの石器が出土している。

長崎鼻一陣貝塚は、中之下の海岸に近い砂丘に位置し、黒川式土器、石斧、骨製髪飾、風習的な抜歯を行なった人骨、この他、吉田式土器、塞ノ神式土器、曾畠式土器、夷式土器、指宿式土器、市来式土器などの遺物も採集されている。

仲之町遺跡は、島間川河口西岸の墓地や島間中学校裏門近くの砂丘に位置し、弥生式土器や土師器などの遺物が出土している。

広田遺跡は、弥生時代前期末から後期にいたる埋葬を主体とした遺跡で、平山・広田海岸に面する砂丘に位置している。1955年の台風により砂丘前線の破壊によって発見され、1957年~1959年にかけて金闇丈夫・国分直一・河口貞徳・盛岡尚孝氏らが調査した。その結果、埋葬跡から100余体の人骨が上層と下層に分かれて検出されている。上層人骨は、集骨埋葬で遺体に



第2図 周辺遺跡

は多量の貝符が置かれていた。その貝符の1つには「山」の字の彫刻のある貝符が検出されている。下唇人骨は、極端な屈肢の姿勢で埋葬されていて、特に女性骨では貝輪や貝小珠、トウテツ文の彫画のある貝輪や竜佩などの貝製装飾品を装着して検出されている。

この他、弥生時代の遺跡には、本村塚の峯遺跡、本村丸田遺跡、本村字都遺跡、浜田嵐遺跡長谷遺跡などがある。

歴史時代は上記した本村丸田遺跡などがあり、掘立柱建物跡は平安時代前期から後期ごろの建物跡と考えられている。

第1表 周辺遺跡地名表

No	遺跡名	所在地	地形	時代	遺物等	備考
1	野大野A	中之下野大野	台地	縄文	土器片	平成元年度分布調査
2	上瀬田A	中之下上瀬田	台地	縄文	土器片	昭和63年度分布調査
3	上瀬田B	中之下上瀬田	台地	縄文	土器片	
4	上瀬田	西之	台地	縄(後)	市来式土器・磨製石斧・敲石	
5	田代	西之	台地	縄(前)	塞ノ神式土器	
6	一陣長崎鼻貝塚	中之下	砂丘	縄(晩)	土器(黒川式)・磨製石斧・骨製髪飾り・貝輪・貝殻	
7	鰐口	中之下真所				
8	田代化石	西之上田代				
9	本村塚の峯	西之上本村塚の峯	斜面地	弥(後)	弥生式土器片	
10	本村丸田	西之上本村丸田	畑	弥(後)	弥生式土器片	
11	本村字都	西之上本村字都	斜面地	弥(後)	弥生式土器	
12	松原	茎永松原	台地	弥(後)	弥生式土器	
13	砂坂孫左エ門の塚業績	西之上管造牧				
14	枕状溶石	西之上立石		縄文		
15	平六間伏	中ノ上平六間伏	台地	縄(早)	土器片・石斧	昭和62年発掘調査
16	小牧	中ノ上上小牧	台地		塞ノ神式・磨石	
17	上里城跡	茎永上里	台地			中世城館跡
18	広田石塔祭	平山広田				
19	広田	平山広田	砂丘	弥(中) (後)	弥生式土器・人骨100体余・貝製品・纺錘車・鉄製釣針・獸骨	埋葬址
20	岩穴	平山広田				
21	長谷	長谷	台地	縄(早)	吉田式土器	
22	赤石牟田	長谷赤石牟田:	台地	縄(前)	曾畠式・塞ノ神式	
23	浜田	平山浜田嵐	平地	弥(中)	弥生式土器(須玖式)	
24	田尾	島間田尾	台地	縄(後)	市来式・磨製石斧	
25	大塚山のヤツコ草及び石塔	島間大久留目				
26	上妻城跡	島間向方	台地			中世城館址
27	貫門	島間稻子泊				

## 第Ⅲ章 発掘調査

### 第1節 確認調査の概要

鹿児島県農政部（熊毛支庁土地改良課）は、県営農免農道整備（高山地区）事業を今年度計画した。そこで、本町教育委員会は、平成2年度の分布調査の結果に基づき、関係機関と協議した結果、平成4年度に確認調査を実施する運びとなった。

確認調査は、さとうきび等の作付けの関係で、隣接の畑地においてのう回路建設や現道敷についての通行止めの処置ができない。農免農道計画予定路線内の現道敷以外の用地買収が実施された拡張部分で調査を実施した。調査は、 $2 \times 3\text{ m}$ のトレンチを基本に、1~7トレンチを設定して実施した。しかし、一部のトレンチについては、一部分を拡張したり、作付けの関係で変則的なトレンチを設けての調査であった。

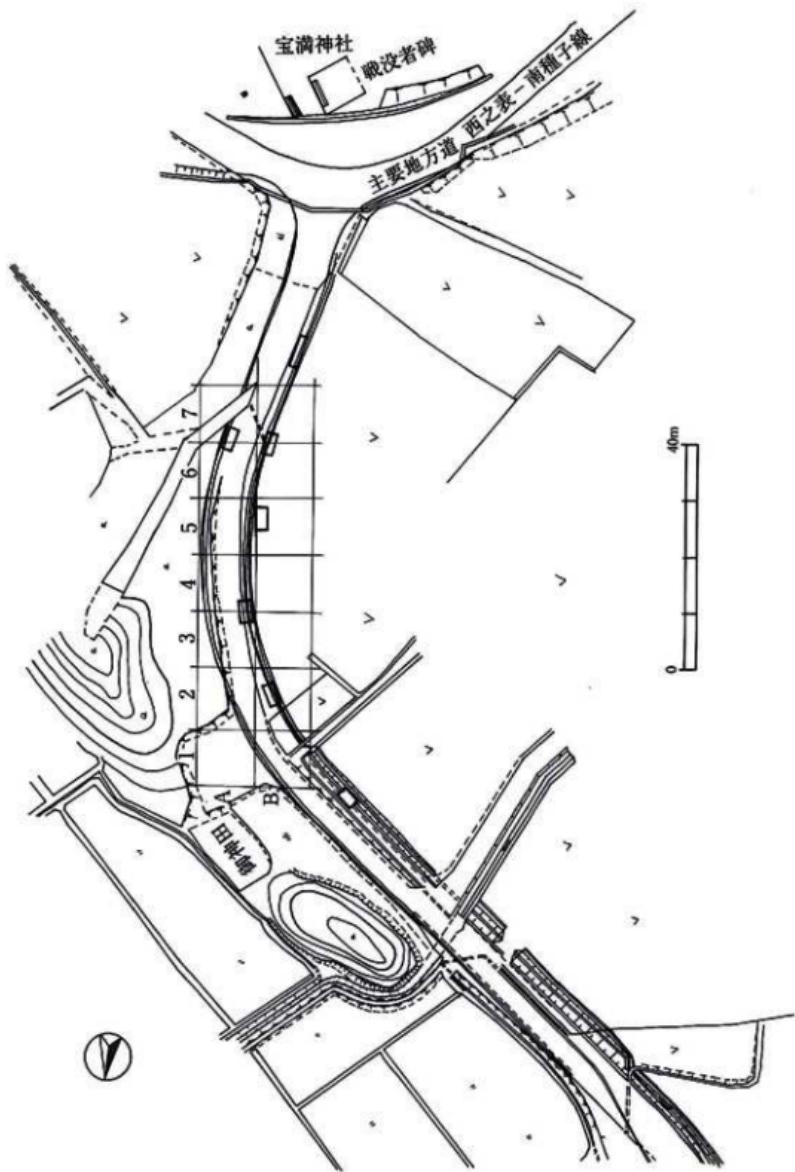
当初、遺跡の北側の状況を把握するために、1トレンチからトレンチを設定した。このトレンチは当初 $2 \times 3\text{ m}$ の規模で耕作土から掘り下げた。その結果、表土部分は客土の灰褐色砂層と部分的な黄褐色砂層との混土で、傾斜した旧耕作土の暗褐色砂層を削平した状況が観察された。その下位のⅡ層淡赤褐色砂層より歴史時代の土師器の小破片が出土し、掘り下げにつれてトレンチ北側部分に遺物が集中した。そこで、トレンチ北側部分に1mを拡張して調査を実施した。その結果、遺物包含層は南側から北側への傾斜が認められ、Ⅱ層淡赤茶褐色砂層の上部から中位にかけては土師器が、中位から下位にかけては土師器、須恵器、小破片の縄文土器が混在して出土した。

1トレンチと同時に2トレンチを $2 \times 3\text{ m}$ の規模で設定した。調査は耕作土より掘り下げた結果、現耕作土の黒褐色砂層は客土で、その下位に僅かな層幅の明褐色砂層の旧耕作土が遺存していた。その下位はかなりの深さまで無遺物層の黄白色砂層となり、大幅な削平を受けていた。遺物は耕作土内より歴史時代、縄文時代の土器や凹石が出土した。

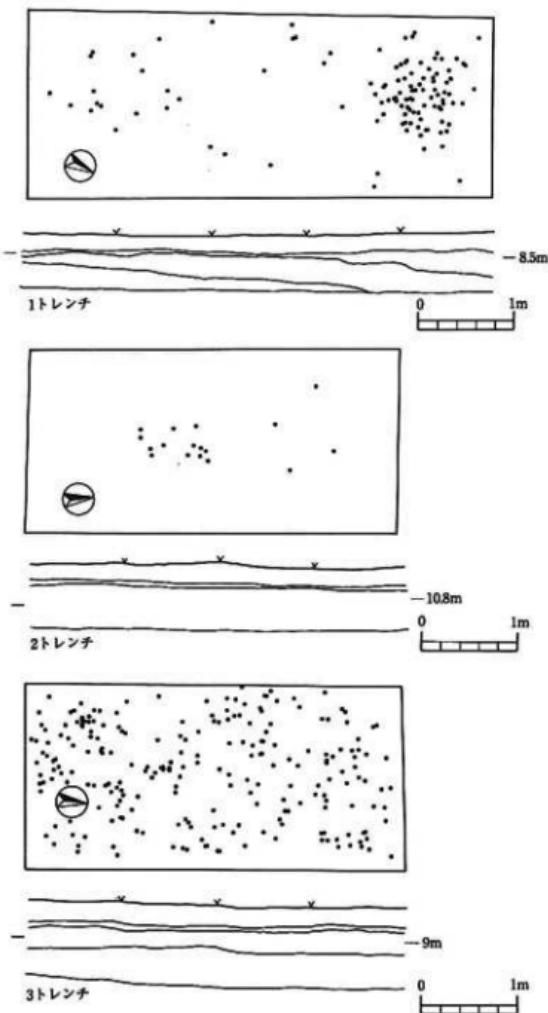
その後、3トレンチを $2 \times 3\text{ m}$ の規模で設定し、耕作土より調査を実施した。その結果、このトレンチも表土部分は黒褐色砂層の客土で、その下位に僅かな層幅の明褐色砂層の旧耕作土が遺存していた。その下位のⅡ層暗黄褐色砂層及びⅢ層暗茶褐色砂層より遺物が出土した。遺物は、Ⅱ層より歴史時代の土師器小破片が多量に出土した。さらに、下位のⅢ層より土師器の破片とともに須恵器、縄文土器の市来式土器破片が混在して出土した。

1トレンチで遺物が出土したために、遺跡の拡がりを確認するために、 $2 \times 3\text{ m}$ の規模で4トレンチを設定した。その調査の結果、ほ場整備前は水田跡であり、耕作土直下が泥炭層となり湧水が著しかったが、遺物の出土はなかった。

5トレンチは、3トレンチの南東側約 $3\text{ m}$ の西南の役戦没者慰靈碑門隣りに、 $2 \times 3\text{ m}$ の規模で、6トレンチは、3トレンチの南側約 $2\text{ m}$ のさとうきび畑に、 $1 \times 5\text{ m}$ の規模のトレンチを、7トレンチは、6トレンチの南側約 $2\text{ m}$ のさとうきび畑に、 $1 \times 7\text{ m}$ のトレンチを設定して調査を実施した。ともに、調査の結果、遺物の出土はなかった。



第3図 松原遺跡の地形及びグリッド・トレンチ配置図



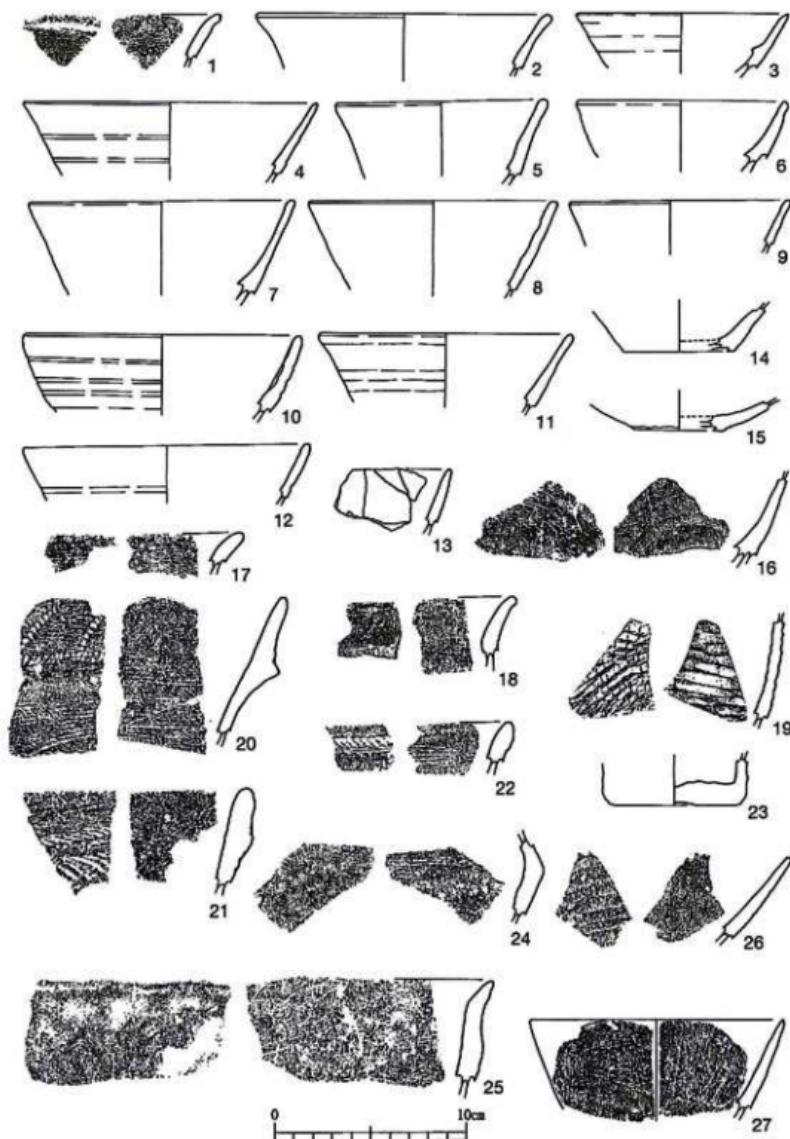
第4図 各トレンチ遺物出土状況及び土層断面

### 1) 出土遺物

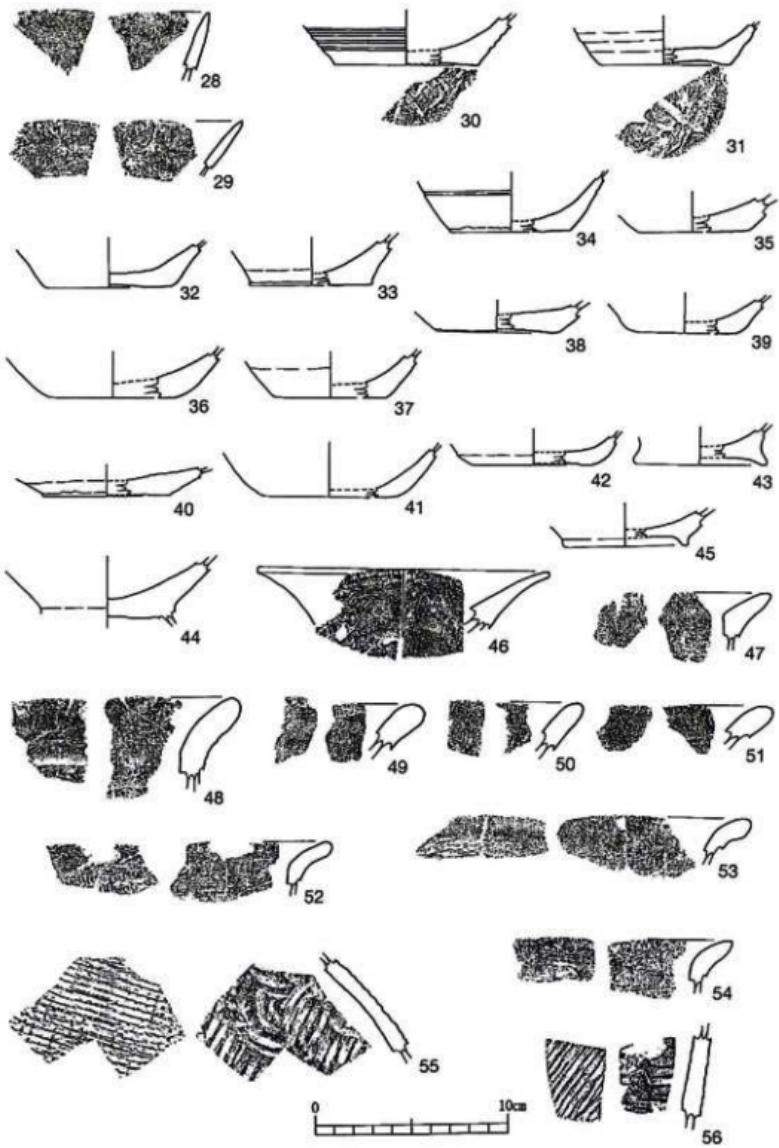
本遺跡は確認調査の結果、1・2・3トレンチより遺物の出土があった。その主体は、土師器の壺形土器か楕形土器、甕形土器を中心、弥生式土器、縄文後期の市来式土器や須恵器などである。

1~19は、1トレンチのⅡ層より出土した弥生土器、歴史時代の土器破片が混在して出土した。1は弥生式土器の口唇部に刻目をもつ口縁部破片で、2~16は土師器の壺形土器か楕形土器の口縁部破片で、14・15は壺形土器の底部破片である。17・18は土師器の甕形土器の口縁部破片で、19は須恵器の破片である。

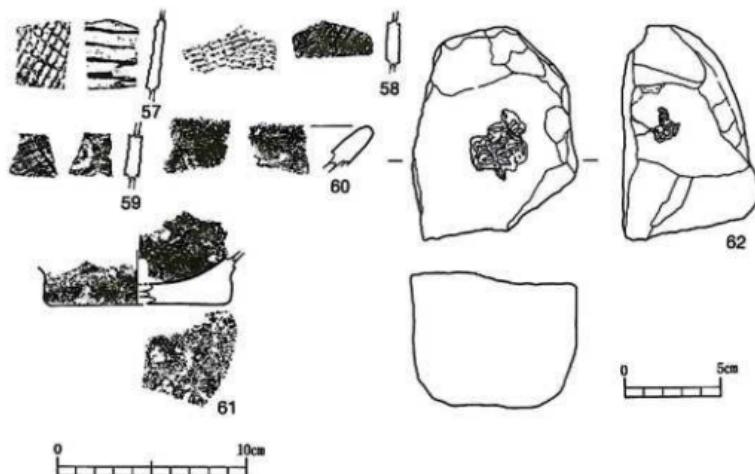
20~59は、3トレンチのⅡ層より出土した縄文土器、弥生土器、歴史時代の土器破片が混在して出土した。20・22は縄文後期の市来式土器の口縁部で、20は口縁部の下端に連續刺突文、その上部に



第5図 出土土器実測図（1）



第6図 出土土器実測図（2）



第7図 出土土器実測図（3）

貝殻腹縁による押圧文が施されている。22は上端に連続刺突文と、その下端には太形の凹線が施されている破片である。21は丸尾式土器の口縁部破片で、貝殻腹縁による押圧文が2段に連続的に施されている。23は後期の底部破片、24は晩期の浅鉢形土器の胴部破片、25は弥生時代後期の栗生I式土器の口縁部破片である。26～54は、土師器の破片で、26～29は壊形土器か椀形土器の口縁部破片である。26は内黒土師器の破片、30～42は壊形土器の底部破片、43～45は椀形土器の底部破片、46は皿形土器の口縁部破片である。47～54は菱形土器の口縁部破片である。55～59は器種は不明であるが、須恵器の胴部や肩部の破片である。

## 第2節 発掘調査の概要

松原遺跡は確認調査の結果、現道敷及び計画路線内において縄文時代や歴史時代などの遺物遺物包含層が確認された。確認された遺物には、縄文土器として、後期の市来式土器の口縁部や底部破片、晩期の浅鉢土器の胴部や底部破片が、弥生土器の後期口縁部破片などがごく少量がみられ、歴史時代の土師器が主体を占め、壊形土器、椀形土器の口縁部や底部破片が多く、菱形土器の口縁部破片などもみられた。このほかに須恵器の破片も少量であったが出土した。これらの土器は、1トレンチと3トレンチより出土し、歴史時代の遺物がほとんど、場所によつては、すでに遺物包含層は大きく削平を受け白色砂層の基盤層が認められた。

そこで、本遺跡が一般地方道西之表一南種子線との取り付け付近に所在しているために、地元をはじめ関係機関より事業推進の要請が強く、協議の結果、道路建設計画の約570m<sup>2</sup>について発掘調査を実施した。

発掘調査は、道路建設計画予定地内に10×10mのグリッドを設定して行なった。グリッドは

道路建設計画のセンターラインの一部を結び、それを基準として、北一南方向に1～7区、西一東方向にA・B区を設定した。

当初、調査は現道敷の交通止の処置がとれず、本格的な調査が実施できなかった。そこで、調査は、A区側西端の現道敷以外の路線内について耕作土より掘り下げを実施した。遺物は耕作土直下のⅡ層上部より歴史時代の土師器細片が多量に出土した。

その後、全面調査は、道路隣接部の畠地に仮設道を設定し、現道敷の表土を重機によって耕土作業を行いながら、B-5・6区の表土の残土剥ぎより人力で実施した。

さらに、重機による表土剥ぎ作業と併行しながら終了部分については、グリッドの打ち直し作業を行い、掘り下げ作業を継続した。

Ⅱ層は、A・B-2区、A-3区の一部、A-4・5・6区を中心に、歴史時代の土師器・須恵器などの土器細片が多量に出土したが、縄文土器小破片もみられる。

Ⅲ層は、A-3区の一部、A-4・5・6区を中心に、縄文時代後期の市来式土器、丸尾式土器のほぼ同一形式の一群がを主体を占め、晩期の黒川式土器などの土器破片がみられる程度であるが、歴史時代の土師器・須恵器も混在して出土した。

Ⅳ層は、A-4区の一部、A-5・6区を中心に、縄文時代後期の市来式土器、丸尾式土器のほぼ同一形式の一群がを主体を占め、草野式土器などの土器破片がみられる程度であるが、歴史時代の土師器・須恵器の破片も混在して出土した。遺構として、3基の集石遺構の検出があった。

### 第3節 層序

本遺跡の層序については、砂丘特有の層堆積で、場所により若干の色調の変化があり、ここでは、基本的な層序としてI～V層までを数えることができる。

I層 黒褐色砂層。畠地の耕作土及び農道敷となる。場所によっては畠地造成のための客土があり、その客土が現耕作土となっている。

II層 灰明褐色砂層。遺物包含層である。主的には歴史時代の遺物が出土するが、細片が多い。現道敷部分では大方削平を受けている。

III層 幼褐色砂層。遺物包含層である。主的には縄文時代の遺物が出土するが、歴史時代の遺物も多くし、混在して出土する。A・B-2区、A-4区の一部からA-5・6区にかけて遺存している。

IV層 灰茶褐色砂層。遺物包含層である。A-4区の一部よりはじまりA-6区へのびている。A-2・3区は大幅な削平を受けているために消失している。主に縄文時代の遺物が出土が、歴史時代の遺物も混在して出土する。

V層 白砂層。無遺物層である。

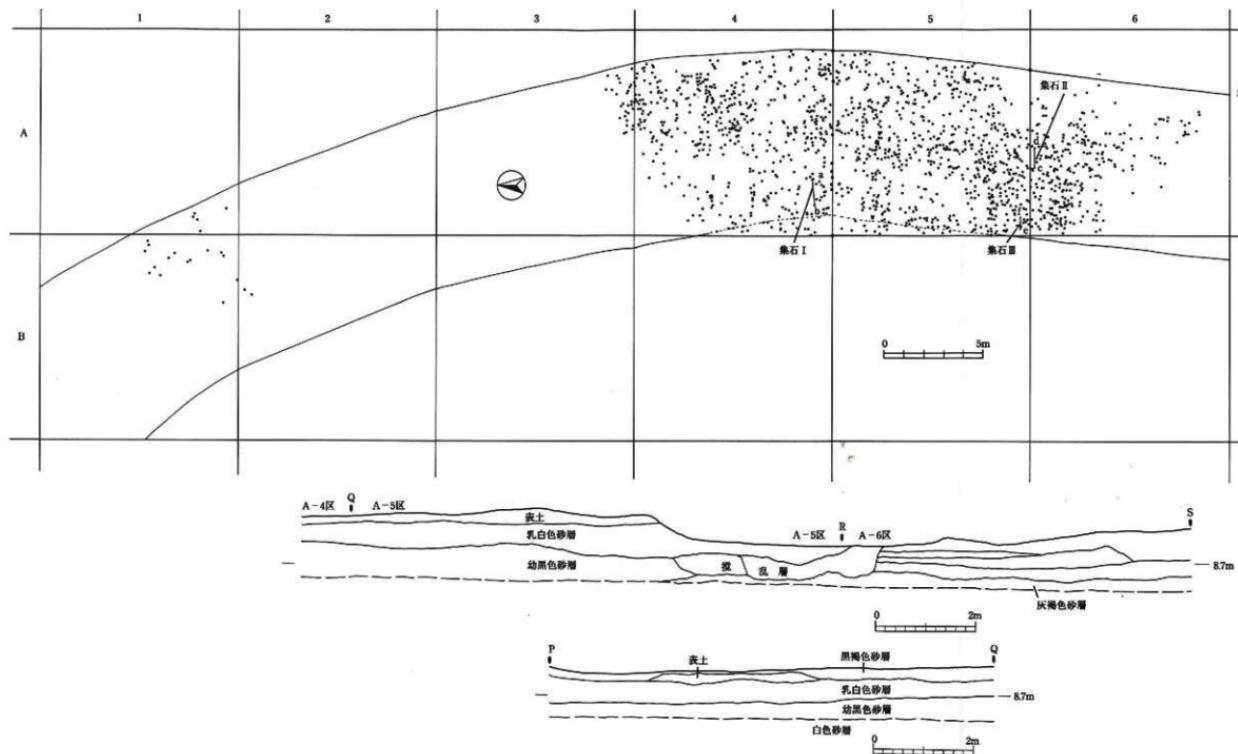


図8 遺物出土状況及び土層断面図



# 第Ⅳ章 縄文時代

## 第1節 調査の概要

確認調査の結果、Ⅲ層及びⅣ層より歴史時代の遺物とともに縄文土器が出土した。この縄文土器の大半は、主体的にⅣ層よりの出土であったが、砂丘地のためか土師器の壺形土器や楕形土器、土師器の甕形土器の破片、須恵器、磁器などの破片も混在して出土した。これらの土器の出土範囲は、A-3区の一部からA-4・5区を経てA-6区の一部にかけてである。遺物包含層はA-4区の一部よりA-6区にかけ南側への傾斜を認めたが、すでにA-2区の一部からA-3区にかけては大きく削平を受け遺物包含層は消失していた。

なお、A-4区・A-5区・A-6区には、集石遺構3基が検出された。

## 第2節 遺構

Ⅳ層からは、3基の集石遺構が検出された。集石は、Ⅳ層の最下面付近で検出され、集石遺構の時期は、集石Ⅰより共伴する遺物が検出されたものの、縄文土器の無文の復元不可能な破片のために全体の器形を知り得なかったが、縄文時代後期に該当するものと考えられる。

この集石遺構は、調査区域の中央部より南側にかけて検出された。集石Ⅰは、3基のうち大きい規模であり、集石Ⅱは移設を実施した。

### 1 集石Ⅰ（第9図）

集石Ⅰは、調査区のほぼ中央付近のA-5区よりのA-4区南西隅で、調査区の最頂部に検出された。集石Ⅰは150×140cmのほぼ円形のプランで、掘り込みは検出されなかった。集石の構成は、拳大の砾で構成され、火を受けたためかそのほとんどが破碎している。石材は、砂岩で、角砾がほとんどであるが円砾もみられる。この集石内より縄文土器の無文の破片が出土したが、復元は不可能であった。

### 2 集石Ⅱ（第9図）

集石Ⅱは、集石Ⅰより略南側方向へ11mの地点で、A-6区の北側端のほぼ中央付近に検出された。集石Ⅱは75×80cmのほぼ円形のプランで、掘り込みはなく拳大の楕円砾で構成され、中には火を受けたためか破碎した砾もみられた。これらの集石の重なりはなかった。この集石Ⅱは、砂岩の石材で構成され、後世に残すために移設作業を実施し、郷土館に展示公開した。

### 3 集石Ⅲ（第9図）

集石Ⅲは、集石Ⅱより略西側方向へ3.5mの地点で、A-5区の南西隅に検出された。集石Ⅲは40×30cmの不定形の形状規模で、路線外へのびている可能性がある。この集石は、円砾と角砾で構成され、拳大より若干大きい砂岩を素材としていた。

集石 I



—

— 8.1m



集石 II



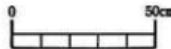
c \*



d \*



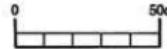
—



集石 III



— 8.1m



第9図 集石実測図

### 第3節 出土遺物

Ⅲ層出土の後期該当の土器は、調査区のほぼ全面に満遍なく出土している。しかも、小破片が多く、ほぼ同一型式の一群が主体を占める。他に二・三片の別型式の土器片が見られる程度であり、出土土器は便宜的に以下のように分けた。

#### (1) 土器

##### 1類 (第10図63～第13図129)

口縁部が「く」字に屈曲し、その部分が肥厚して文様が施文される。いわゆる市来式土器に該当するものである。文様の組み合わせは、凹線文に、ヘラ状刺突文・竹管状刺突文・貝殻腹縁刺突文などを組み合わせるもの。貝殻腹縁の刺突文やヘラ状の刺突文を単独に連続して施文するものに分かれる。前者をa類、後者をb類として細分した。

##### 1 a類 凹線文に刺突文を組み合わせるもの (第10図63～第13図119)

肥厚する口縁部に、凹線文を二条程度施し、その上下に刺突文を施文するものである。口縁部は山形の波状を呈するものと平口縁のものとが見られる。波頂部には刺突文や貝殻刺突文などの文様を施文する。凹線文が太いものとややシャープなものとが認められる。

##### 1 b類 貝殻腹縁やヘラ状での刺突文を単独に施文するもの (第13図120～129)

肥厚口縁部に連続して刺突文を施文するもので、貝殻腹縁刺突文は肥厚部全面に斜位の刺突文が施される。

##### 2類 (第14図132～134)

口縁部肥厚帯が間延びしているもので、「く」字状を呈するものである。丸尾タイプあるいは丸尾式土器と呼ばれているものである。

##### 3類 (第14図135～140)

口縁部が肥厚するが、内外面共に貝殻条痕文のみを施すものである。

##### 4類 (第15図141～152)

口縁部が「く」字状を呈し、この屈曲部を中心に斜位の貝殻刺突文を施すものである。

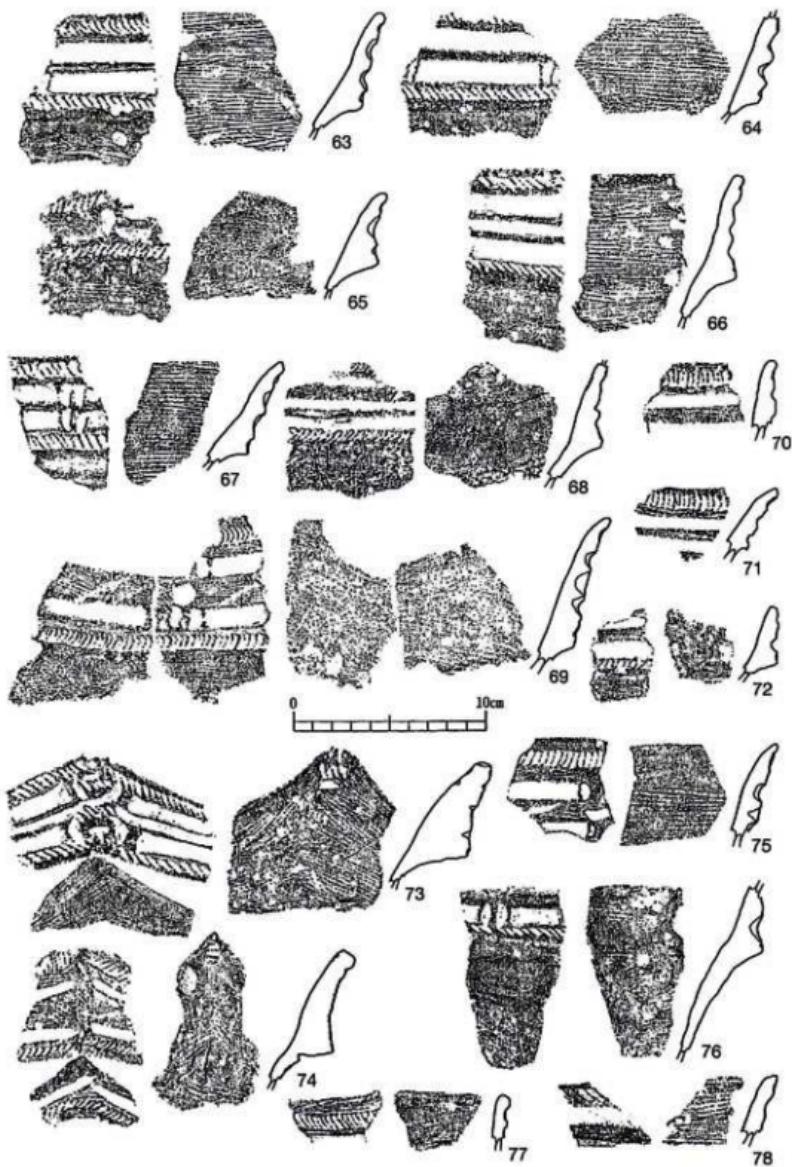
152は口縁部から底部付近まで残存していたもので、胴部下半は、下から上へとケズリ痕が観察される。

##### 5類 (第16図153～第17図173)

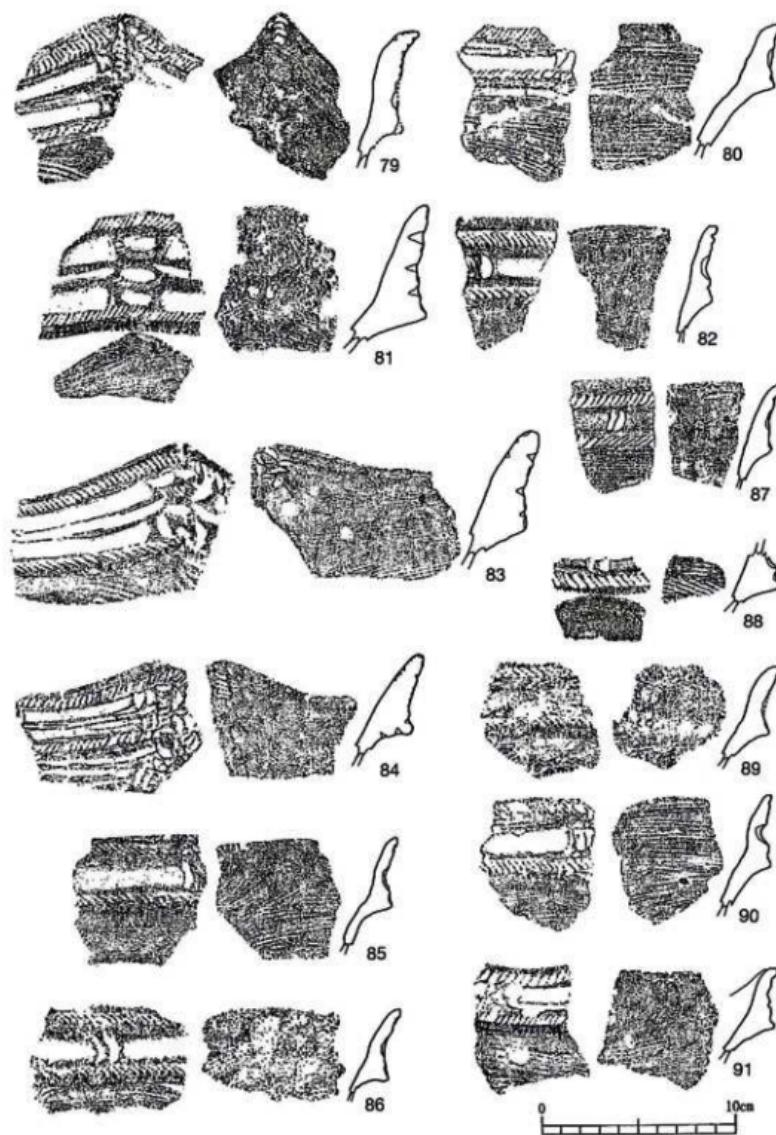
縄文時代後期の属すると思われるものを一括した。157は台付皿形土器の口縁部片である。外面の沈線文内に赤色顔料が認められる。172は、鉢形の器形を呈し、口縁部に三角形状の突起を有する。

##### 6類 (第18図174～190)

縄文時代晩期の土器を一括した。胴部の屈曲がシャープなものも見られる。180・182は胴部



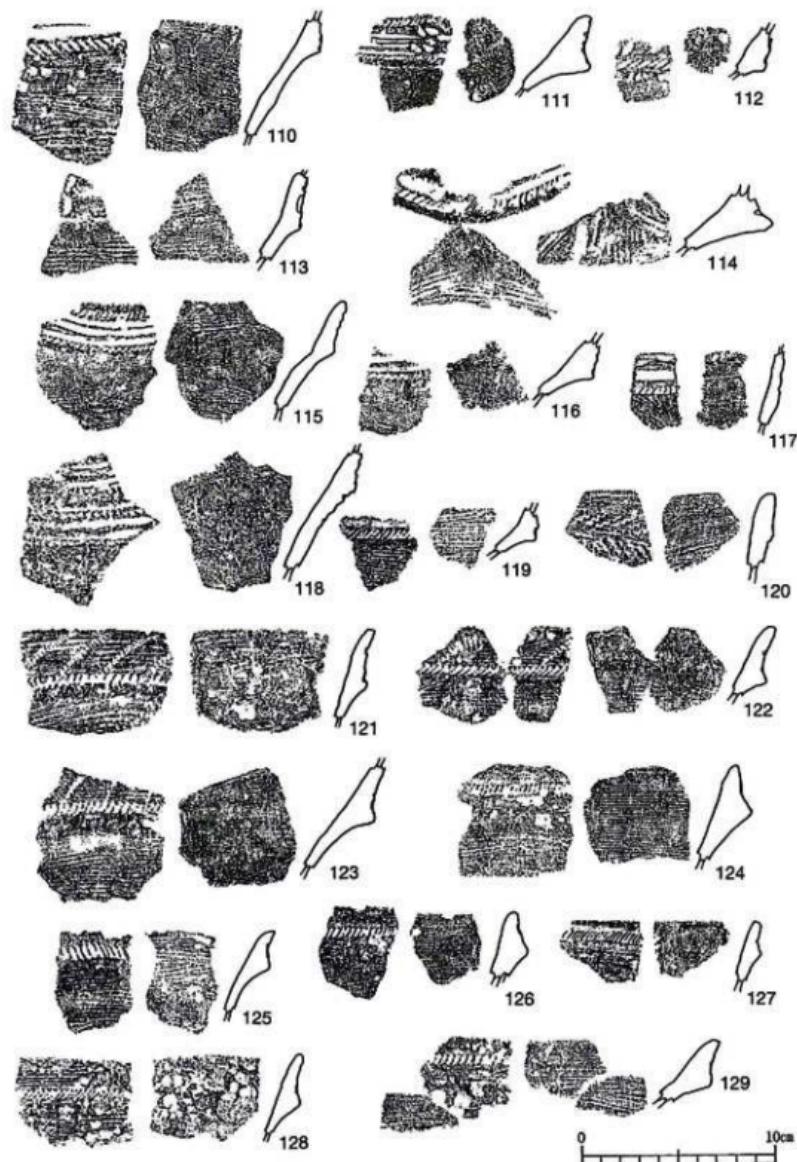
第10図 出土土器実測図 (4)



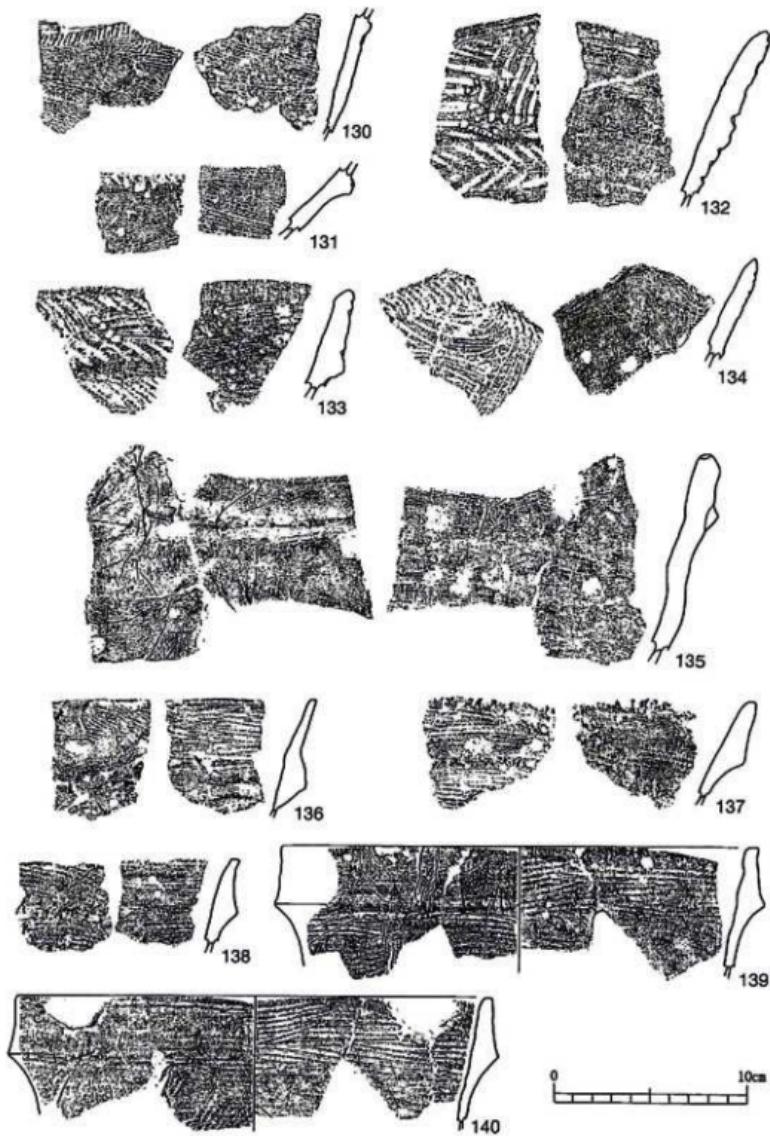
第11図 出土土器実測図（5）



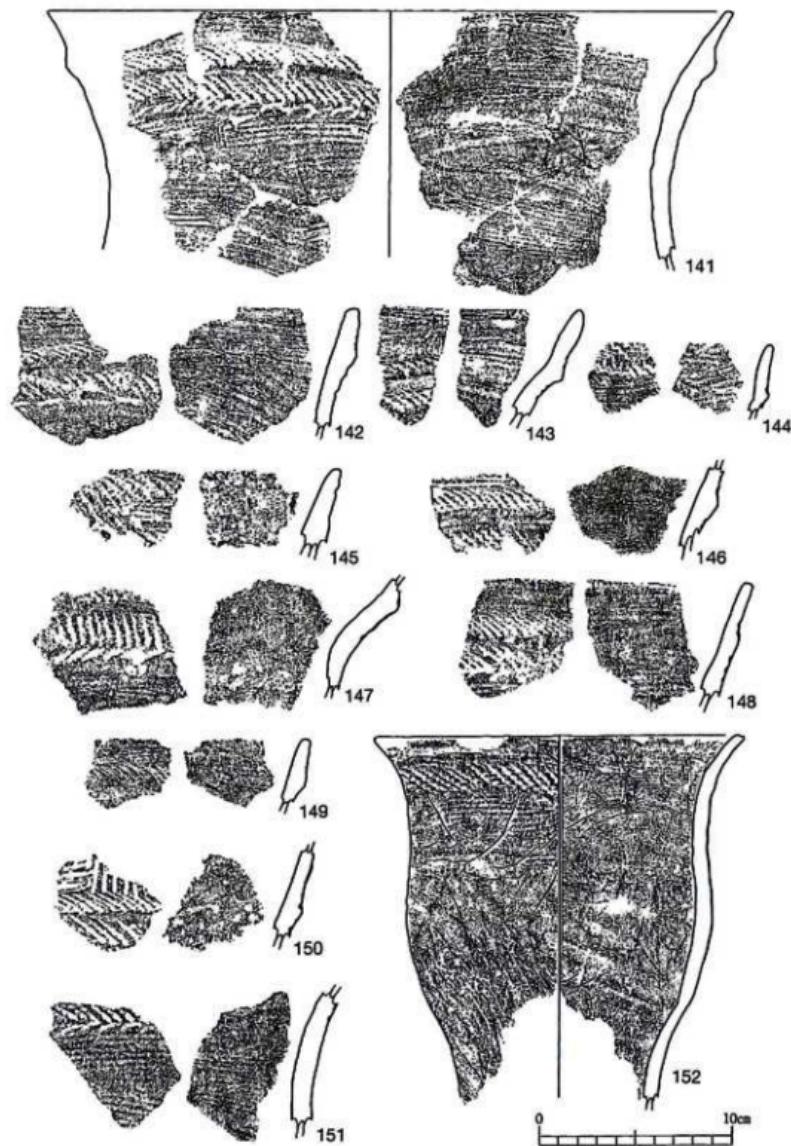
第12図 出土土器実測図（6）



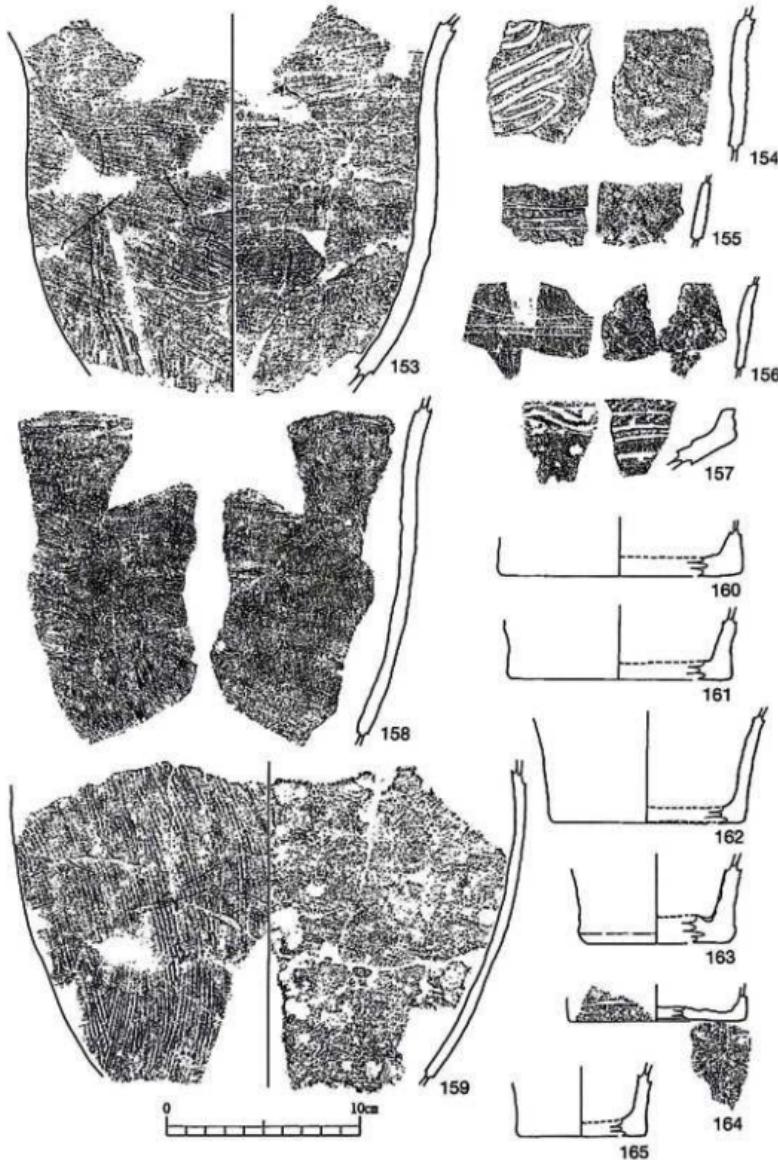
第13図 出土土器実測図（7）



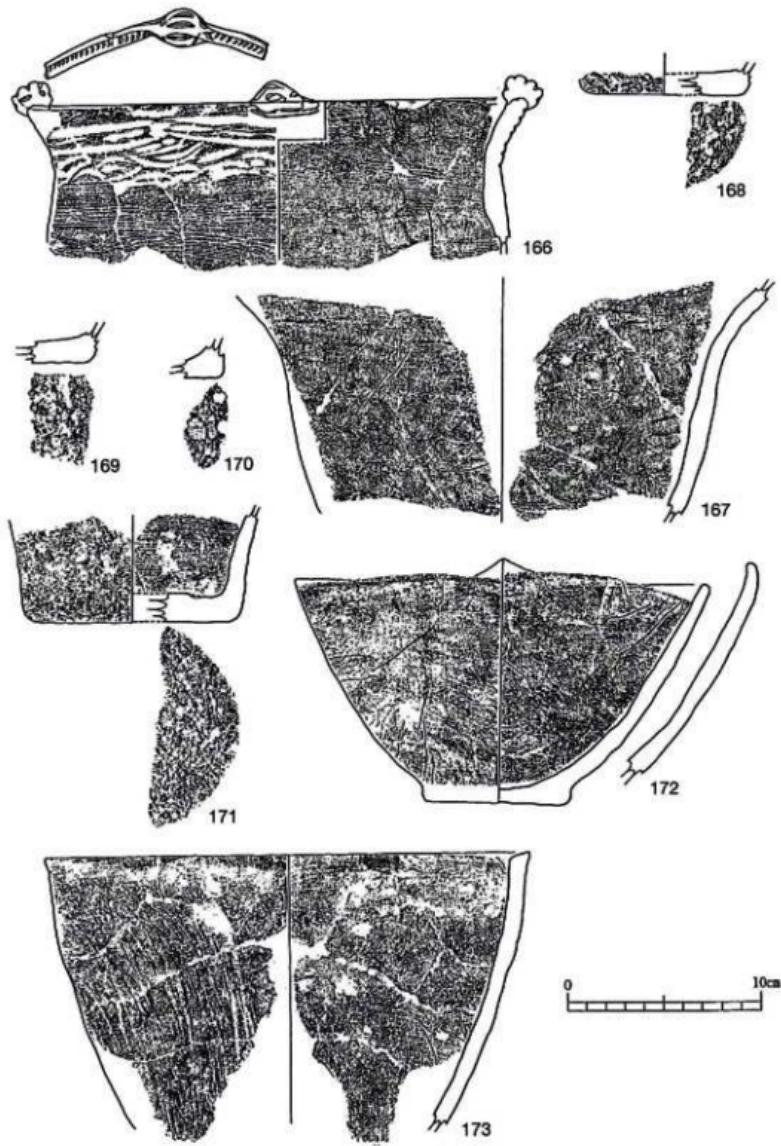
第14図 出土土器実測図（8）



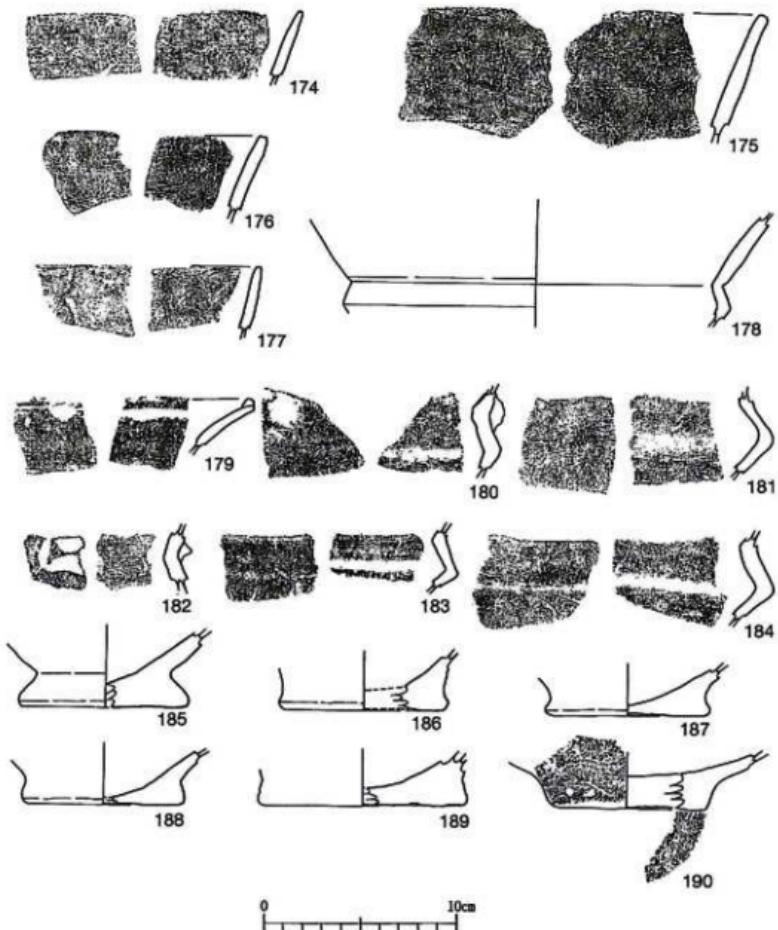
第15図 出土土器実測図（9）



第16図 出土土器実測図 (10)



第17図 出土土器実測図 (11)



第18図 出土土器実測図 (12)

屈曲部にリボン状突起が付着する。

## (2) 石器

本遺跡における石器には、磨製石斧・磨石類・石皿などがある。剥片石器の出土は確認できなかった。191～197は磨製石斧で、やや厚みがある。198はノミ形石斧である。縄文時代後期の土器と共に出土する事例が比較的多いものである。199～214は磨石類である。磨りばかりではなく、敲き石としても用いられている。199～212は円形ないしは梢円形状の砾を用い、213・214はやや不定形の砾を素材として用いている。

# 第V章 歴史時代

## 第1節 土師器（第22図216～第24図275）

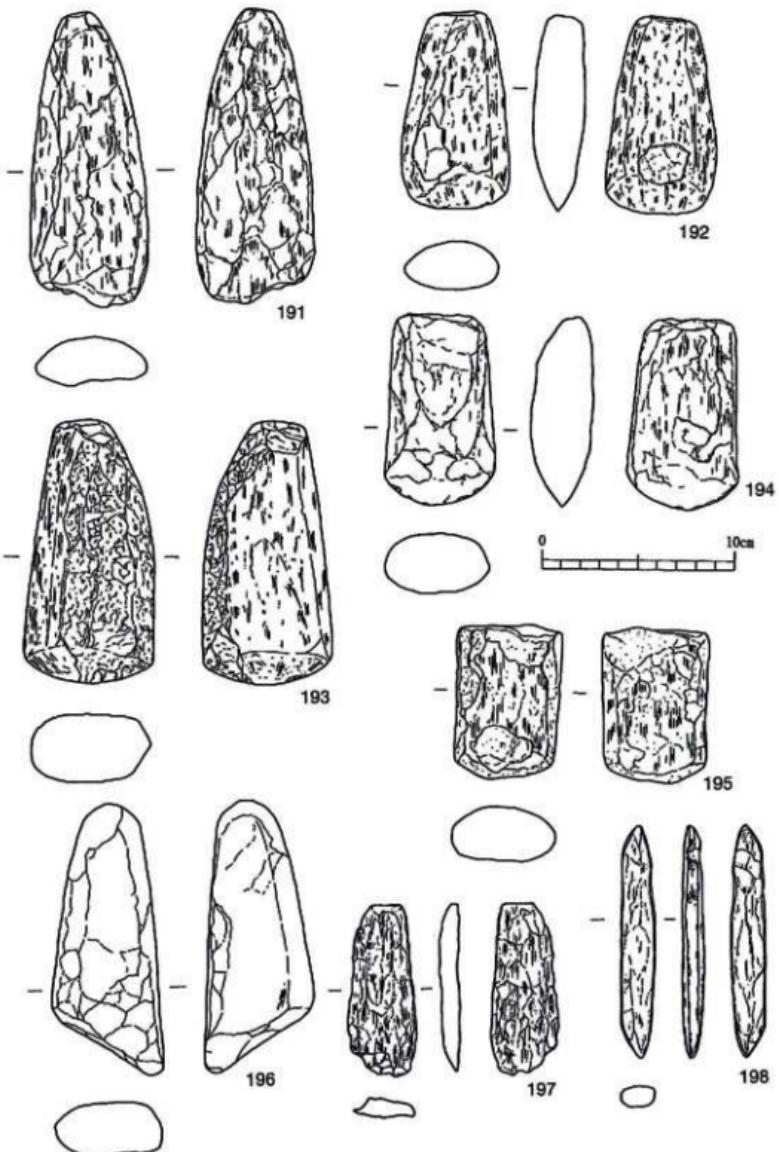
土師器は、縄文時代後期土器と共に出土量の多かったものである。器種には、壺・碗・壺・皿の四種類が確認された。216～242は壺で、底部はヘラ起こしである。口縁部は直行ないしわずかに外反する。243～253は碗で、壺に高台が付いたものである。250は内面の剥落が激しくはっきりとしないが内黒土師器の可能性がある。254～257は皿である。254～256は高台付きの皿で、257は、ヘラ切りの底部で口縁部から胴部の屈曲部にかけてが比較的短い。なお、皿内面にはススが付着した痕跡が観察される。灯明皿としての用途が考えられる。260～264は内黒土師器を一括した。265～275は土師壺である。口縁部が外反し、口唇部は丸みを呈する。口縁部内面に段を有するものもある。これは、ナデ調整の後に胴部以下をケズリ込むことで生じたものであろう。265の胴部内面の調整は横方向のケズリである。

## 第2節 須恵器（第25図276～第27図304）

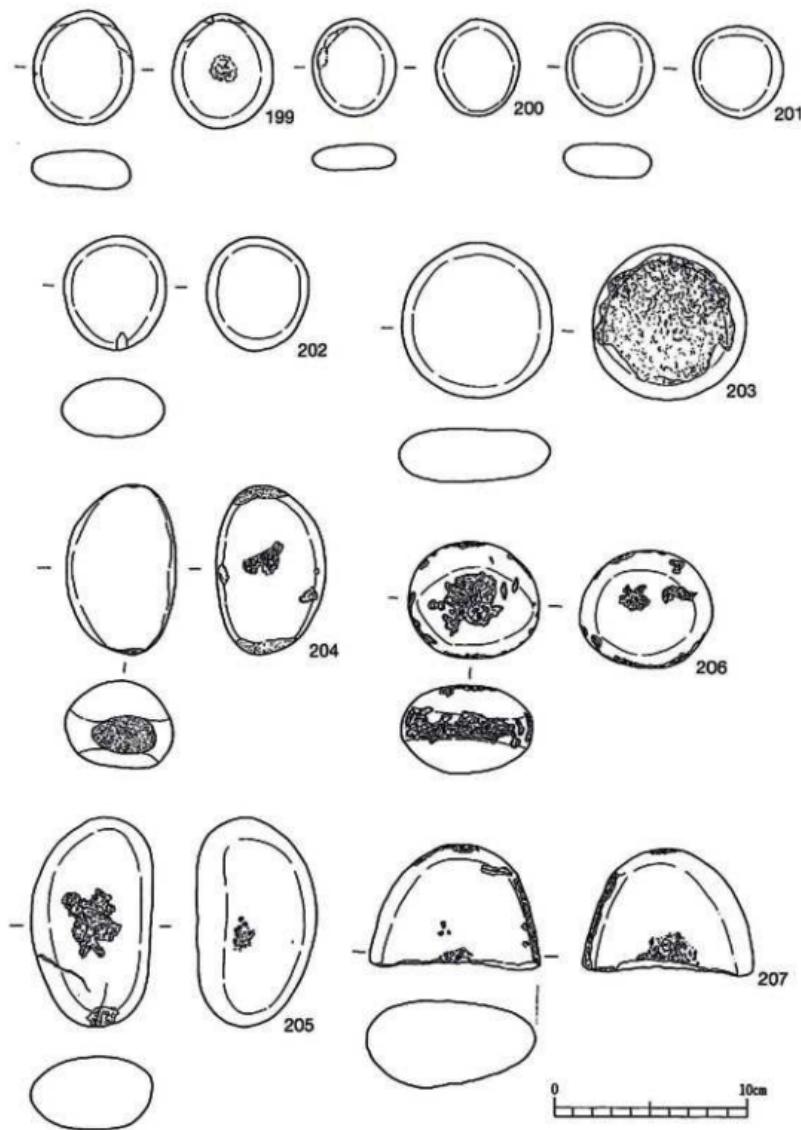
276～302は壺の可能性が高い。タタキには格子目・同心円・平行などがある。303は壺になる可能性が考えられる。これら須恵器はいずれも小破片が多く、器形などの全体像を知りうる資料は認められなかった。304は壺の口縁部と思われる。

## 第3節 青磁器（第27図305～317）

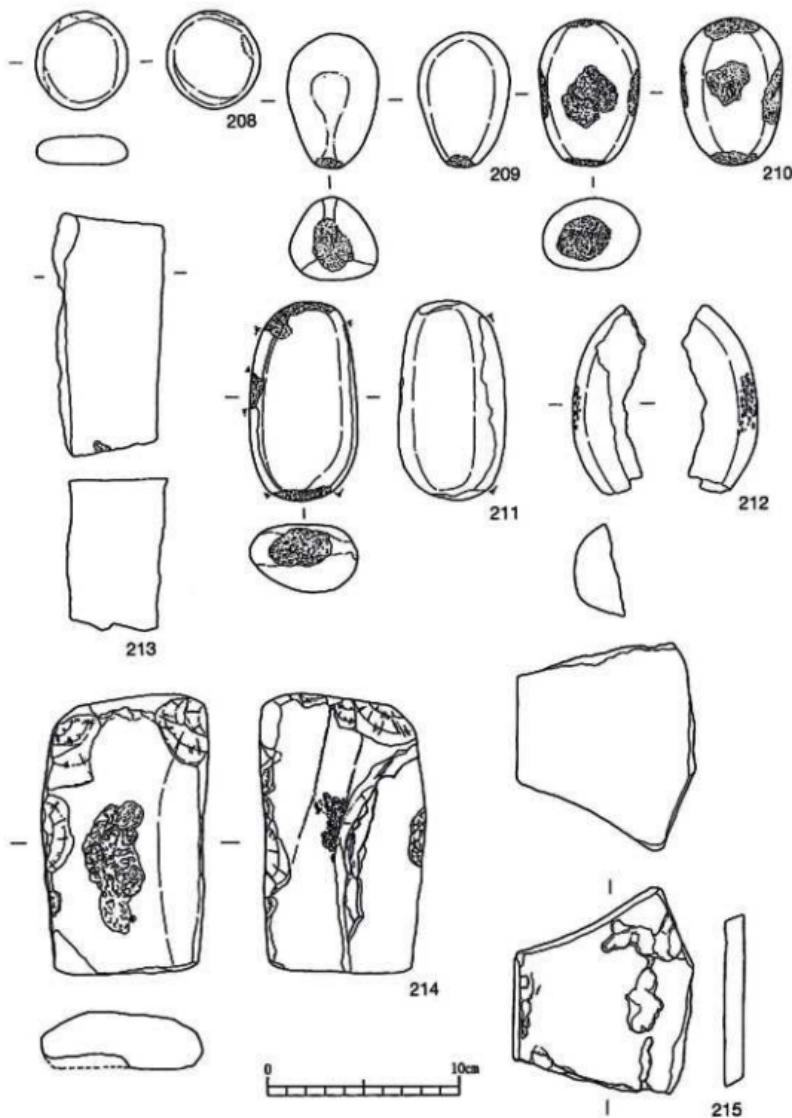
305～311は器壁が薄い。305は越州窯の碗の可能性が考えられる。312は、高台が付く。壺になる可能性が考えられる。314は、内面に目跡が観察できる。315は越州窯の碗であろう。316・317は中世に属するものと思われる。龍泉窯の青磁碗と思われる。



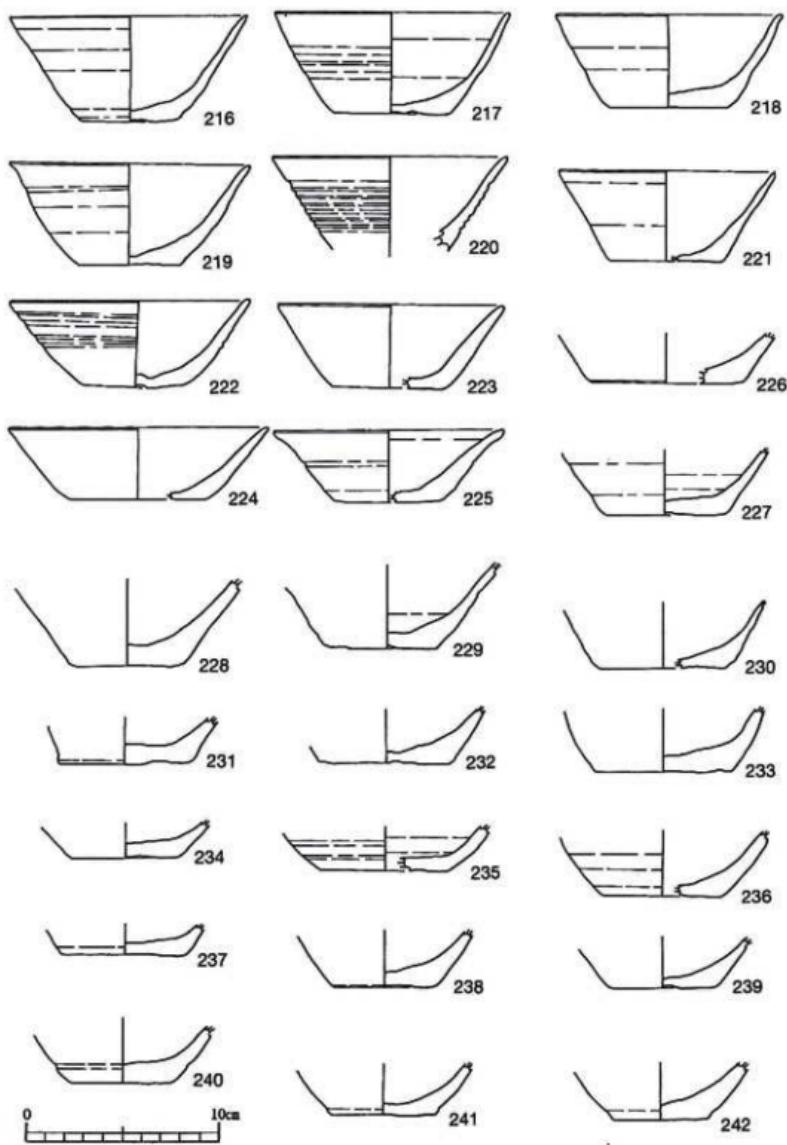
第19図 出土石器実測図（1）



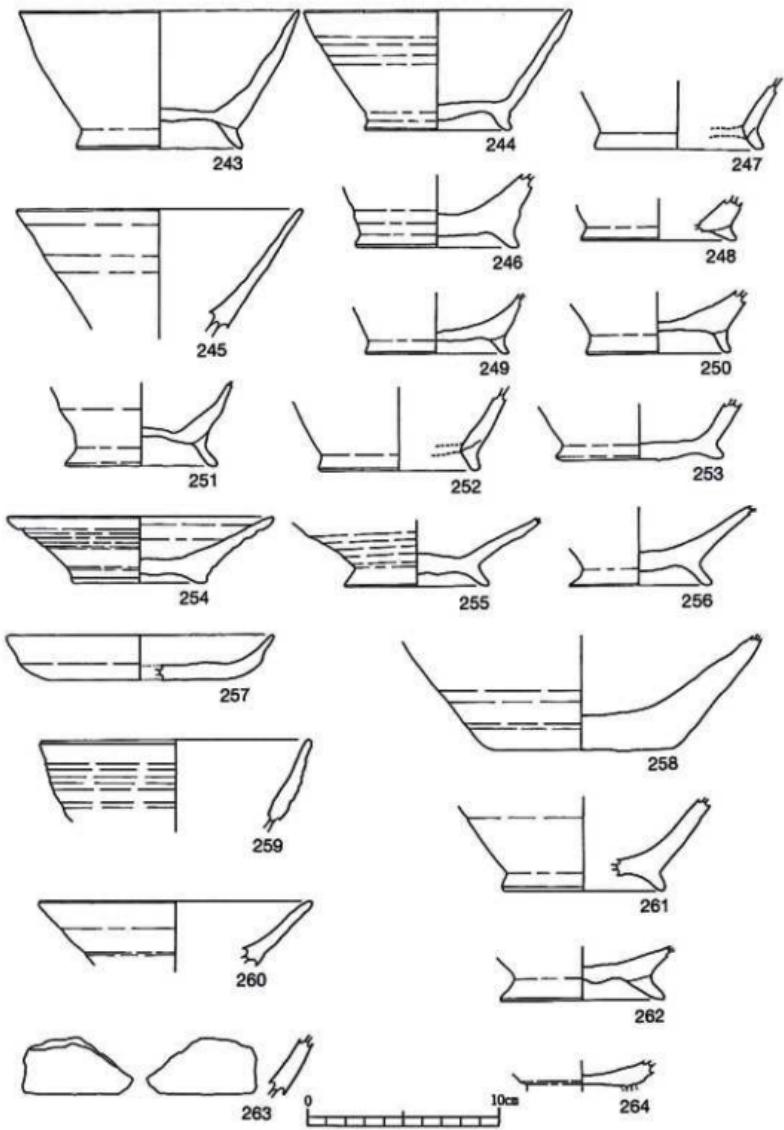
第20図 出土石器実測図（2）



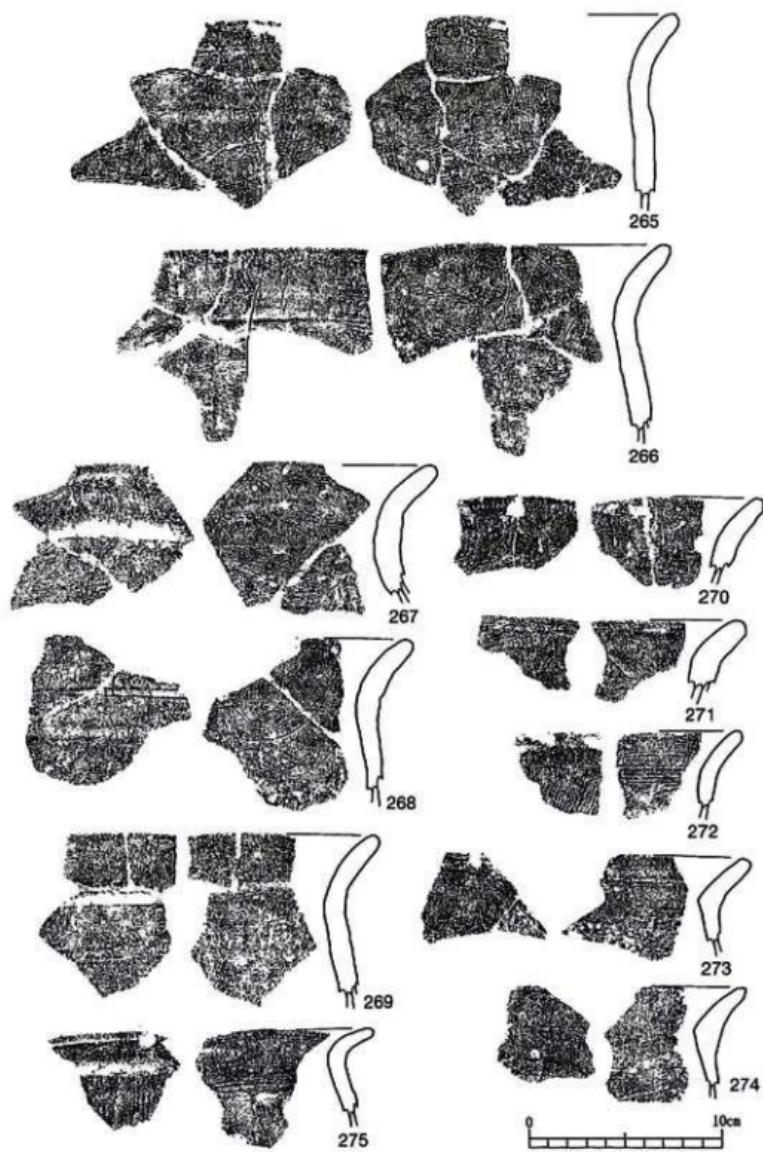
第21図 出土石器実測図（3）



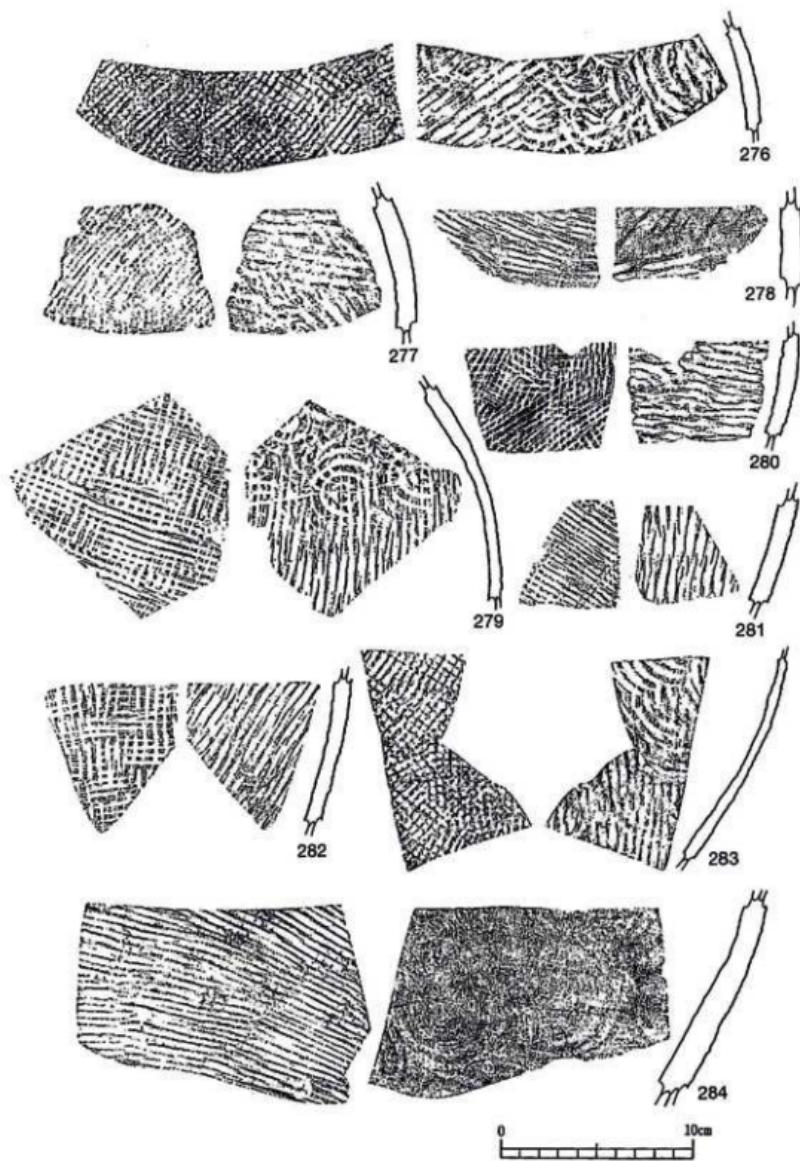
第22図 出土土器実測図 (13)



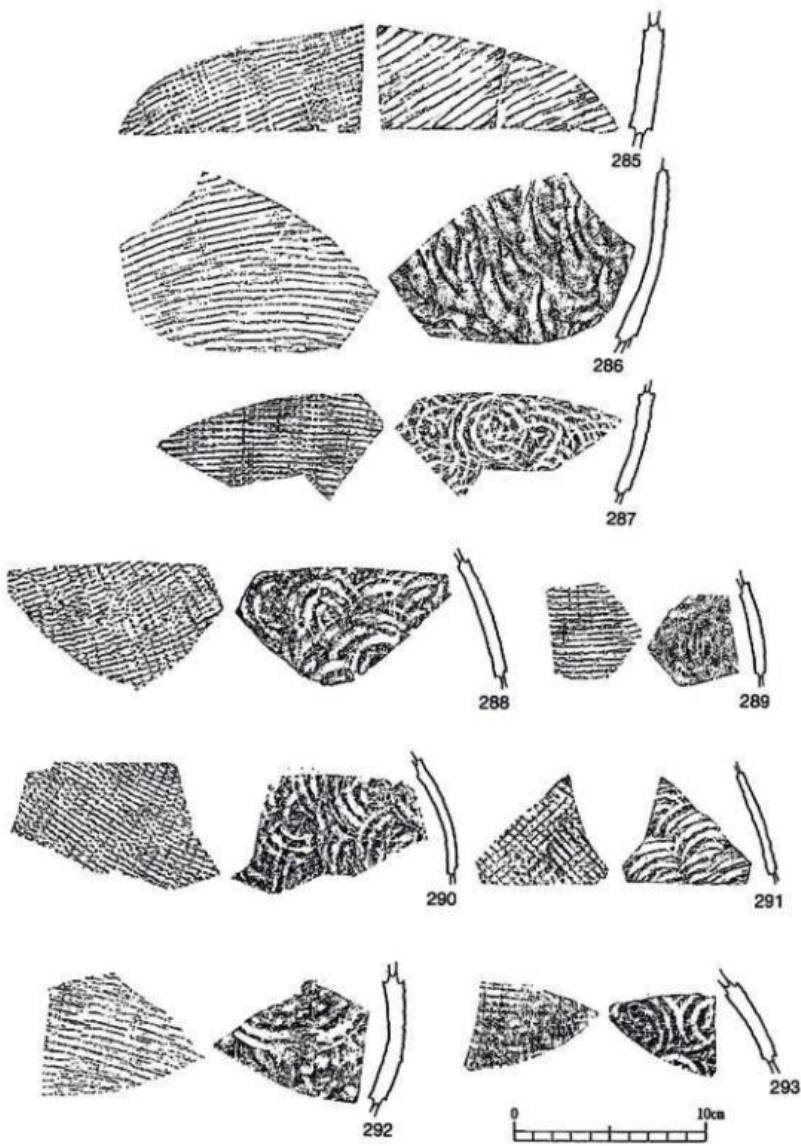
第23図 出土土器実測図 (14)



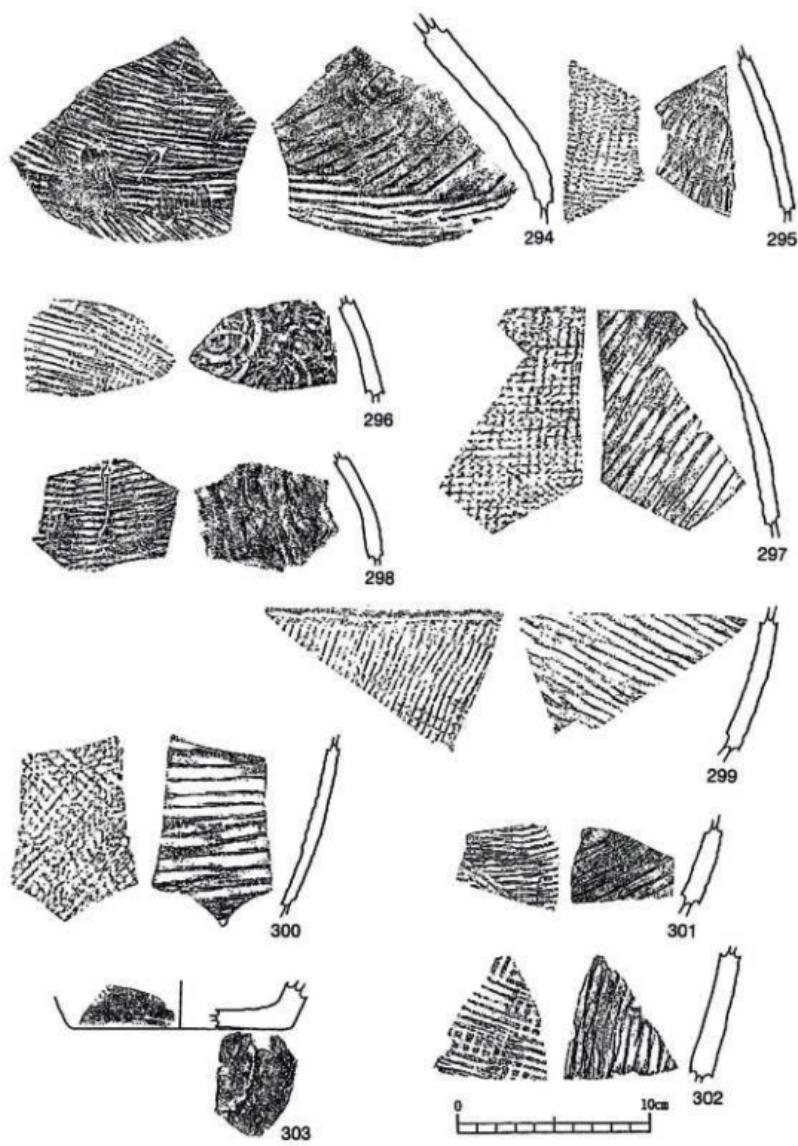
第24図 出土土器実測図 (15)



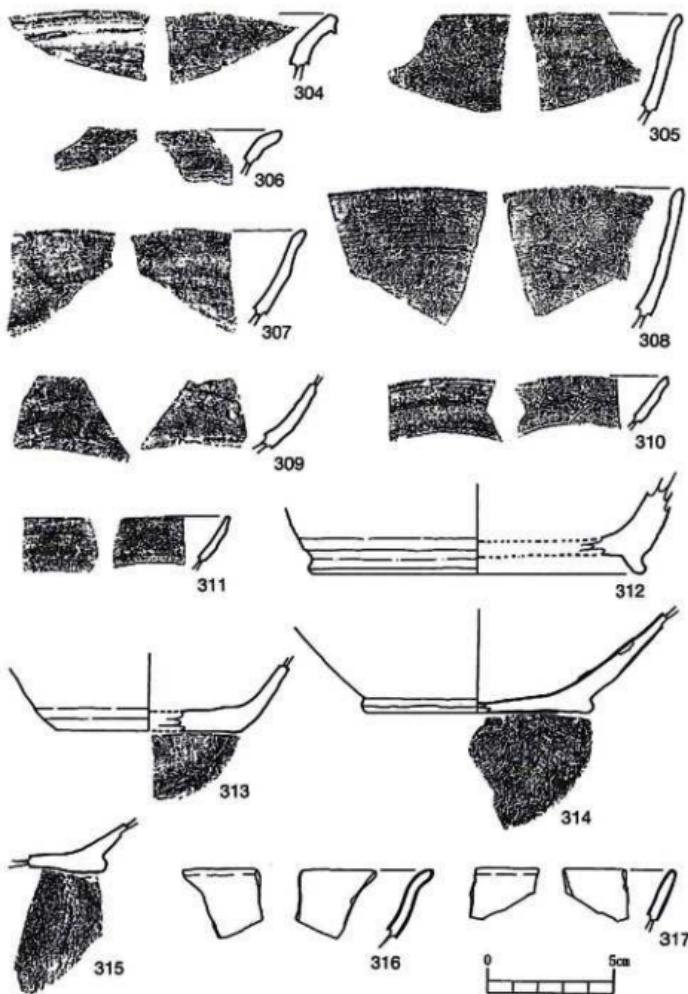
第25図 出土土器実測図 (16)



第26図 出土土器実測図 (17)



第27図 出土土器実測図 (18)



第28図 出土土器実測図 (19)

第2表 出土器観察表(1)

番号	状	取上期	時代	基形	分類	調		調		石英	輝石	内閃	云母	粉粒	小理	环状	白粒	備考
						外	内	外	内									
63	A 4	106	縄文後	深溝	I a	貝多模様ナメ	貝多面	赤茶褐色	暗茶褐色	○	○							
64	A 6	1364	縄文後	深溝	I a	ナメ	貝多模様ナメ	赤茶褐色	暗茶褐色	○								
65	A 5	1553	縄文後	深溝	I a	貝多模様ナメ	貝多模様ナメ	赤茶褐色	赤茶褐色	○								
66	A 6	1503	縄文後	深溝	I a	貝多模様ナメ	貝多模様ナメ	赤茶褐色	青茶褐色	○	○	○						
67	A 5	1205	縄文後	深溝	I a	貝多模様ナメ	貝多模様ナメ	赤茶褐色	青茶褐色	○								○
68	A 6	1449	縄文後	深溝	I a	貝多模様ナメ	貝多模様ナメ	赤茶褐色	暗茶褐色	○	○							
69	A 5	1195	縄文後	深溝	I a	貝多模様ナメ	貝多模様ナメ	赤茶褐色	暗茶褐色	○								
70	A 4	609	縄文後	深溝	I a	貝多模様ナメ	貝多模様ナメ	赤茶褐色	暗茶褐色	○								
71	A 6	1305	縄文後	深溝	I a	貝多模様ナメ	貝多模様ナメ	赤茶褐色	赤茶褐色	○								
72	A 4	869	縄文後	深溝	I a	貝多模様ナメ	貝多模様ナメ	赤茶褐色	赤茶褐色	○								
73	A 6	1287	縄文後	深溝	I a	貝多模様ナメ	貝多模様ナメ	赤茶褐色	暗茶褐色	○								
74	A 6	1299	縄文後	深溝	I a	貝多模様ナメ	貝多模様ナメ	赤茶褐色	暗茶褐色	○								
75	A 6	966	縄文後	深溝	I a	貝多模様ナメ	貝多模様ナメ	赤茶褐色	暗茶褐色	○								
76	A 6	1434	縄文後	深溝	I a	貝多模様ナメ	貝多模様ナメ	赤茶褐色	暗茶褐色	○								
77	A 4	952	縄文後	深溝	I a	ナメ	貝多模様ナメ	貝多模様ナメ	赤茶褐色	暗茶褐色	○							
78	A 5	865	縄文後	深溝	I a	ナメ	貝多模様ナメ	貝多模様ナメ	赤茶褐色	暗茶褐色	○							
79	A 6	1308	縄文後	深溝	I a	貝多模様ナメ	貝多模様ナメ	赤茶褐色	暗茶褐色	○	○							
80	A 6	1423	縄文後	深溝	I a	貝多模様ナメ	貝多模様ナメ	赤茶褐色	赤茶褐色	○	○							
81	A 6	1425	縄文後	深溝	I a	貝多模様ナメ	貝多模様ナメ	赤茶褐色	赤茶褐色	○								
82	A 6	1311	縄文後	深溝	I a	貝多模様ナメ	貝多模様ナメ	赤茶褐色	赤茶褐色	○								
83	A 6	1298	縄文後	深溝	I a	貝多模様ナメ	貝多模様ナメ	赤茶褐色	赤茶褐色	○								
84	A 4	286	縄文後	深溝	I a	貝多模様ナメ	貝多模様ナメ	赤茶褐色	赤茶褐色	○	○							
85	A 5	1195	縄文後	深溝	I a	貝多模様ナメ	貝多模様ナメ	赤茶褐色	赤茶褐色	○								
86	A 5	1201	縄文後	深溝	I a	貝多模様ナメ	貝多模様ナメ	赤茶褐色	赤茶褐色	○	○							
87	A 5	1086	縄文後	深溝	I a	貝多模様ナメ	貝多模様ナメ	赤茶褐色	赤茶褐色	○								
88	A 5	797	縄文後	深溝	I a	貝多模様ナメ	貝多模様ナメ	赤茶褐色	赤茶褐色	○								
89	A 5	1208	縄文後	深溝	I a	貝多模様ナメ	貝多模様ナメ	赤茶褐色	赤茶褐色	○								
90	A 4	971	縄文後	深溝	I a	貝多模様ナメ	貝多模様ナメ	赤茶褐色	赤茶褐色	○								
91	A 6	1466	縄文後	深溝	I a	貝多模様ナメ	貝多模様ナメ	赤茶褐色	赤茶褐色	○								
92	A 6	1326	縄文後	深溝	I a	ナメ	ナメ	赤茶褐色	暗茶褐色	○	○							
93	A 6	1317	縄文後	深溝	I a	貝多模様ナメ	貝多模様ナメ	赤茶褐色	赤茶褐色	○								
94	A 6	1303	縄文後	深溝	I a	貝多模様ナメ	貝多模様ナメ	ナメ	暗褐色	○								
95	A 5	1227	縄文後	深溝	I a	ナメ	ナメ	暗褐色	暗褐色	○								
96	A 6	505	縄文後	深溝	I a	貝多模様ナメ	貝多模様ナメ	赤茶褐色	暗茶褐色	○	○							
96	A 6	1513	縄文後	深溝	I a	貝多模様ナメ	貝多模様ナメ	赤茶褐色	暗茶褐色	○								
96	A 6	1343	縄文後	深溝	I a	貝多模様ナメ	貝多模様ナメ	赤茶褐色	暗茶褐色	○								
97	A 4	1027	縄文後	深溝	I a	ナメ	ナメ	赤茶褐色	暗茶褐色	○	○							
98	A 6	1469	縄文後	深溝	I a	ナメ	貝多模様ナメ	赤茶褐色	暗茶褐色	○	○							
99	B 5	337	縄文後	深溝	I a	ナメ	ナメ	赤茶褐色	暗茶褐色	○	○							
100	A 5	1060	縄文後	深溝	I a	ナメ	ナメ	赤茶褐色	暗茶褐色	○	○							
101	A 5	751	縄文後	深溝	I a	ナメ	ナメ	赤茶褐色	暗茶褐色	○	○							
102	A 6	1443	縄文後	深溝	I a	ナメ	ナメ	赤茶褐色	暗茶褐色	○	○							
103	A 6	1463	縄文後	深溝	I a	貝多模様ナメ	貝多模様ナメ	赤茶褐色	赤茶褐色	○	○							
104	A 6	1430	縄文後	深溝	I a	貝多模様ナメ	貝多模様ナメ	赤茶褐色	赤茶褐色	○								
105	A 6	1339	縄文後	深溝	I a	ナメ	ナメ	赤茶褐色	暗茶褐色	○								
106	A 6	1290	縄文後	深溝	I a	ナメ	ナメ	赤茶褐色	暗茶褐色	○								
107	A 6	1464	縄文後	深溝	I a	貝多模様ナメ	貝多模様ナメ	赤茶褐色	暗茶褐色	○	○							
108	A 6	1312	縄文後	深溝	I a	ナメ	ナメ	赤茶褐色	暗茶褐色	○								
109	A 4	150	縄文後	深溝	I a	ナメ	ナメ	赤茶褐色	暗茶褐色	○								
110	A 6	1348	縄文後	深溝	I a	貝多模様ナメ	貝多模様ナメ	赤茶褐色	暗茶褐色	○								
111	A 6	1448	縄文後	深溝	I a	ナメ	ナメ	赤茶褐色	暗茶褐色	○								
112	A 5	756	縄文後	深溝	I a	ナメ	ナメ	赤茶褐色	暗茶褐色	○								
113	A 6	1315	縄文後	深溝	I a	貝多模様ナメ	貝多模様ナメ	赤茶褐色	暗茶褐色	○								
114	A 6	1260	縄文後	深溝	I a	貝多模様ナメ	貝多模様ナメ	赤茶褐色	暗茶褐色	○								
115	A 6	1356	縄文後	深溝	I a	貝多模様ナメ	貝多模様ナメ	赤茶褐色	暗茶褐色	○								
116	A 6	1435	縄文後	深溝	I a	貝多模様ナメ	貝多模様ナメ	赤茶褐色	暗茶褐色	○								
117	A 4	966	縄文後	深溝	I a	貝多模様ナメ	貝多模様ナメ	赤茶褐色	暗茶褐色	○								
118	A 6	1445	縄文後	深溝	I a	貝多模様ナメ	貝多模様ナメ	赤茶褐色	暗茶褐色	○								
119	A 4	374	縄文後	深溝	I a	貝多模様ナメ	貝多模様ナメ	赤茶褐色	暗茶褐色	○								
120	A 4	704	縄文後	深溝	I b	貝多模様ナメ	貝多模様ナメ	赤茶褐色	暗茶褐色	○								
121	A 6	1330	縄文後	深溝	I b	貝多模様ナメ	貝多模様ナメ	赤茶褐色	暗茶褐色	○								
122	A 5	771	縄文後	深溝	I b	貝多模様ナメ	貝多模様ナメ	赤茶褐色	暗茶褐色	○								
123	A 5	1545	縄文後	深溝	I b	貝多模様ナメ	貝多模様ナメ	赤茶褐色	暗茶褐色	○								
124	A 4	1592	縄文後	深溝	I b	貝多模様ナメ	貝多模様ナメ	赤茶褐色	暗茶褐色	○								
125	A 4	242	縄文後	深溝	I b	貝多模様ナメ	貝多模様ナメ	赤茶褐色	暗茶褐色	○								
126	A 5	1556	縄文後	深溝	I b	貝多模様ナメ	貝多模様ナメ	赤茶褐色	暗茶褐色	○								
126	A 6	1357	縄文後	深溝	I b	貝多模様ナメ	貝多模様ナメ	赤茶褐色	暗茶褐色	○								
127	A 6	1451	縄文後	深溝	I b	貝多模様ナメ	ナメ	赤茶褐色	暗茶褐色	○	○							
128	A 4	3033	縄文後	深溝	I b	貝多模様ナメ	ナメ	赤茶褐色	暗茶褐色	○								

第3表 出土土器観察表（2）

測定番号	区	取上%	時代	器形	分類	調査		調査		岩相	灰岩	漂石	角閃	黄母	粉母	小理	茶粒	白粒	備考
						外面	内面	外面	内面										
13	129	A 4	706	縄文後	深鉢	1 b	貝塚直底ナデ	貝塚直底ナデ	黄茶褐色	黄茶褐色	○	○							
	130	A 4	1046	縄文後	深鉢	1	貝塚直底ナデ	貝塚直底ナデ	黄茶褐色	黄茶褐色	○	○					○		
	131	A 6	1354	縄文後	深鉢	1	貝塚直底ナデ	貝塚直底ナデ	黄茶褐色	黄茶褐色	○	○					○		
	132	A 4	707	縄文後	深鉢	2	ナデ	ナデ	黄茶褐色	赤茶褐色	○	○					○	○	
	133	A 5	1524	縄文後	深鉢	2	ナデ	貝塚直底ナデ	黄茶褐色	黄茶褐色	○	○							
	134	A 6	1363	縄文後	深鉢	2	ナデ	ナデ	黄茶褐色	黄茶褐色	○	○					○		
	135	A 6	1331	縄文後	深鉢	3	ナデ	ナデ	赤茶褐色	赤茶褐色	○	○					○		
14	136	A 6	1360	縄文後	深鉢	3	ナデ	貝塚直底ナデ	黄茶褐色	赤茶褐色	○	○							
	137	A 6	994	縄文後	深鉢	3	貝塚直底ナデ	貝塚直底ナデ	赤茶褐色	赤茶褐色	○	○					○		
	138	A 6	1360	縄文後	深鉢	3	貝塚直底ナデ	貝塚直底ナデ	赤茶褐色	赤茶褐色	○	○							
	139	A 5	1124	縄文後	深鉢	3	貝塚直底ナデ	貝塚直底ナデ	赤茶褐色	○	○								
	140	A 5	1170	縄文後	深鉢	3	貝塚直底ナデ	貝塚直底ナデ	赤茶褐色	赤茶褐色	○	○							
	141	A 5	1171	縄文後	深鉢	3	貝塚直底ナデ	貝塚直底ナデ	赤茶褐色	赤茶褐色	○	○							
	142	A 6	1486	縄文後	深鉢	3	貝塚直底ナデ	貝塚直底ナデ	赤茶褐色	赤茶褐色	○	○							
15	143	A 5	166	縄文後	深鉢	3	貝塚直底ナデ	貝塚直底ナデ	赤茶褐色	赤茶褐色	○	○							
	144	A 5	1422	縄文後	深鉢	4	貝塚直底ナデ	貝塚直底ナデ	赤茶褐色	赤茶褐色	○	○							
	145	A 4	533	縄文後	深鉢	4	貝塚直底ナデ	貝塚直底ナデ	赤茶褐色	翠茶褐色	○	○							
	146	A 4	536	縄文後	深鉢	4	貝塚直底ナデ	貝塚直底ナデ	赤茶褐色	翠茶褐色	○	○					○	○	
	147	A 5	1067	縄文後	深鉢	4	貝塚直底ナデ	貝塚直底ナデ	赤茶褐色	赤茶褐色	○	○							
	148	A 5	327	縄文後	深鉢	4	貝塚直底ナデ	貝塚直底ナデ	赤茶褐色	赤茶褐色	○	○							
	149	A 4	576	縄文後	深鉢	4	貝塚直底ナデ	貝塚直底ナデ	赤茶褐色	黄茶褐色	○								
	150	A 5	218	縄文後	深鉢	4	貝塚直底ナデ	貝塚直底ナデ	赤茶褐色	黄茶褐色	○								
	151	A 5	847	縄文後	深鉢	4	貝塚直底ナデ	貝塚直底ナデ	赤茶褐色	黄茶褐色	○								
	152	A 5	1271	縄文後	深鉢	4	貝塚直底ナデ	貝塚直底ナデ	赤茶褐色	黄茶褐色	○								
	153	A 5	533	縄文後	深鉢	4	貝塚直底ナデ	貝塚直底ナデ	赤茶褐色	黄茶褐色	○								
	154	A 5	574	縄文後	深鉢	4	貝塚直底ナデ	貝塚直底ナデ	赤茶褐色	黄茶褐色	○								
	155	A 3	228	縄文後	深鉢	4	貝塚直底ナデ	貝塚直底ナデ	赤茶褐色	赤茶褐色	○								
	156	A 3	270	縄文後	深鉢	4	貝塚直底ナデ	貝塚直底ナデ	赤茶褐色	赤茶褐色	○								
	157	A 3	1503	縄文後	深鉢	4	貝塚直底ナデ	貝塚直底ナデ	赤茶褐色	赤茶褐色	○								
	158	A 3	549	縄文後	深鉢	5	ナダ	ナダ	ナダ	ナダ	○	○					○	○	
	159	A 5	1058	縄文後	深鉢	5	ナダ	ナダ	ナダ	翠茶褐色	翠茶褐色	○	○						
	160	A 5	335	縄文後	深鉢	5	ナダ	ナダ	ナダ	赤茶褐色	○								
	161	A 1	336	縄文後	深鉢	5	ナダ	ナダ	ナダ	赤茶褐色	○								
	162	A 4	948	縄文後	深鉢	5	ナダ	ナダ	ナダ	赤茶褐色	○								赤斑特
	163	A 5	321	縄文後	深鉢	5	ナダ	ナダ	ナダ	赤茶褐色	○								
16	164	A 5	1117	縄文後	深鉢	5	貝塚直底	貝塚直底	贝黄茶褐色	翠黄茶褐色	○	○					○	○	
	165	A 5	1118	縄文後	深鉢	5	貝塚直底	貝塚直底	贝黄茶褐色	翠黄茶褐色	○	○							
	166	A 4	712	縄文後	深鉢	5	ナダ	ナダ	ナダ	贝黄茶褐色	贝黄茶褐色	○	○						
	167	A 4	320	縄文後	深鉢	5	ナダ	ナダ	ナダ	贝黄茶褐色	贝黄茶褐色	○	○						
	168	A 3	1055	縄文後	深鉢	5	ナダ	ナダ	ナダ	贝黄茶褐色	贝黄茶褐色	○	○						
	169	A 4	628	縄文後	深鉢	5	ナダ	ナダ	ナダ	贝黄茶褐色	贝黄茶褐色	○	○						
	170	A 5	1342	縄文後	深鉢	5	ナダ	ナダ	ナダ	贝黄茶褐色	贝黄茶褐色	○							
	171	A 5	1306	縄文後	深鉢	5	ナダ	ナダ	ナダ	贝黄茶褐色	贝黄茶褐色	○							
	172	A 6	1303	縄文後	深鉢	5	ナダ	ナダ	ナダ	贝黄茶褐色	贝黄茶褐色	○							
	173	A 4	309	縄文後	深鉢	5	ナダ	ナダ	ナダ	贝黄茶褐色	贝黄茶褐色	○							
17	174	A 4	987	縄文後	深鉢	6	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	○	○							
	175	A 4	141	縄文後	深鉢	6	ナダ	ナダ	ナダ	黑褐色	○								
	176	A 4	204	縄文後	深鉢	6	ミガキ	ミガキ	ミガキ	黑褐色	○								
	177	A 4	1365	縄文後	深鉢	6	ナダ	ナダ	ナダ	黑褐色	○								
	178	A 4	655	縄文後	深鉢	6	ナダ	ナダ	ナダ	黑褐色	○								
	179	A 4	1428	縄文後	深鉢	6	ミガキ	ミガキ	ミガキ	黑褐色	○								
	180	A 5	1510	縄文後	深鉢	6	ミガキ	ミガキ	ミガキ	黑褐色	○								
	181	A 4	598	縄文後	深鉢	6	ミガキ	ミガキ	ミガキ	黑褐色	○								
	182	A 4	636	縄文後	深鉢	6	ミガキ	ミガキ	ミガキ	黑褐色	○								
	183	A 6	1494	縄文後	深鉢	6	ミガキ	ミガキ	ミガキ	黑褐色	○								
	184	A 4	688	縄文後	深鉢	6	ミガキ	ミガキ	ミガキ	黑褐色	○								
	185	A 5	1175	縄文	深鉢	6	ナダ	ナダ	ナダ	赤茶褐色	○								
	186	A 5	1185	縄文	深鉢	6	ナダ	ナダ	ナダ	赤茶褐色	○								

第4表 出土土器観察表(3)

件番	各号	区	取上No	時代	器形	分類	調査		色調		石英	長石	輝石	角閃	雲母	鈣長	小霞	茶紅	白粒	備考	
							外 面	内 面	外 面	内 面											
18	186	A 5	759	縄文	6	不明	不明	青赤褐色	小茶褐色	○											
	187	A 4	605	縄文	6	ナデ	ナデ	青赤褐色	青赤褐色	○						○		○			
	188	A 4	95	縄文	6	ナデ	ナデ	青赤褐色	青赤褐色	○						○		○			
	189	A 4	294	縄文	6	ナデ	ナデ	青赤褐色	青赤褐色	○	○					○	○				
	190	A 6	1320	縄文	6	ナデ	ナデ	青赤褐色	青赤褐色	○	○					○					

第5表 縄文時代の石器観察表

括弧番号	区	取上No	時代	器種	石材	最大長	最大幅	最大厚	備考
19	191		縄文後～晩	磨製石斧	粘板岩	15.5	6.2	2.3	
	192		縄文後～晩	磨製石斧	粘板岩	10.5	5.5	2.5	
	193		縄文後～晩	磨製石斧	粘板岩	14	6.5	3.8	
	194	A 2	1132	縄文後～晩	磨製石斧	頁岩	10.2	6	3.2
	195	A 3	1504	縄文後～晩	磨製石斧	粘板岩	8	5.5	2.7
20	196		縄文後～晩	磨製石斧	粘板岩	13	5.6	3	
	197		縄文後～晩	磨製石斧	粘板岩	9	3.4	1	
	198		縄文後～晩	ノミ形石斧	粘板岩	12.4	1	1.4	
	199	A 4	685	縄文後～晩	磨石類	砂岩	6	5.4	2
	200	A 4	206	縄文後～晩	磨石類	砂岩	5.4	4.3	1
21	201	A 5	1263	縄文後～晩	磨石類	砂岩	4.8	4.7	1
	202	A 5	1222	縄文後～晩	磨石類	砂岩	5.6	6	3
	203	A 5	1288	縄文後～晩	磨石類	砂岩	8	8	2.8
	204	A 4	1498	縄文後～晩	磨石類	砂岩	9	5.6	4.6
	205	A 5	1273	縄文後～晩	磨石類	砂岩	12	6.4	4.2
21	206	A 6	1474	縄文後～晩	磨石類	砂岩	6.8	6.4	4.8
	207	A 5	1284	縄文後～晩	磨石類	砂岩			5
	208	A 4	312	縄文後～晩	磨石類	砂岩	5.2	4.8	
	209	A 2	1093	縄文後～晩	磨石類	砂岩	7	4.6	
	210	A 5	1219	縄文後～晩	磨石類	砂岩	7.7	5	
21	211	A 4	1497	縄文後～晩	磨石類	砂岩	10.7	5.7	
	212	A 3	523	縄文後～晩	磨石類	石英斑岩			5
	213	A 2	1059	縄文後～晩	石皿	砂岩			5
	214		縄文後～晩	石皿	砂岩	14.5	8	2.8	
	215	A 5	470	縄文後～晩	石皿	砂岩	10	9	0.7

第6表 歴史時代の遺物観察表（1）

件名	番号	区	取上№	時代	種類	分類	計測値			色調		備考
							口徑	高さ	底径	外面	内面	
216	A 5	1161		歴史	土師器	瓶	12.6	5.8	5.2	白黄茶褐色	明茶褐色	
217	A 5	1256		歴史	土師器	瓶	12.6	5.4	5.4	白黄茶褐色	白黄茶褐色	
218		1443		歴史	土師器	瓶	12.2	5	6.2	白黄茶褐色	白黄茶褐色	
219		1286		歴史	土師器	瓶	13	5.4	5.6	白黄茶褐色	白黄茶褐色	
220	A 5	56		歴史	土師器	瓶	12.8			白黄茶褐色	白黄茶褐色	
221		27		歴史	土師器	瓶	11.4	4.8	6	白黄茶褐色	白黄茶褐色	
222		1396		歴史	土師器	瓶	13	4.8	5.4	白黄茶褐色	白黄茶褐色	
223	A 5	1528		歴史	土師器	瓶	12.2	4.6	6	赤茶褐色	赤茶褐色	
224	A 5	389		歴史	土師器	瓶	14	4	7.4	白黄茶褐色	白黄茶褐色	
225	A 5	432		歴史	土師器	瓶	12.2	4	5.8	白黄茶褐色	白黄茶褐色	
226	A 5	382		歴史	土師器	瓶			8.4	白黄茶褐色	白黄茶褐色	
227	A 5	354		歴史	土師器	瓶			6.6	白黄茶褐色	白黄茶褐色	
228	A 5	1508		歴史	土師器	瓶			6	白黄茶褐色	白黄茶褐色	
229	A 5	896		歴史	土師器	瓶			5	白黄茶褐色	白黄茶褐色	
230	A 6	1493		歴史	土師器	瓶			7	白黄茶褐色	白黄茶褐色	
231	A 4	1037		歴史	土師器	瓶			7.2	白黄茶褐色	白黄茶褐色	
232	A 6	1381		歴史	土師器	瓶			7	白黄茶褐色	白黄茶褐色	
233	A 5	1530		歴史	土師器	瓶			7	白黄茶褐色	白黄茶褐色	
234	A 5	1145		歴史	土師器	瓶			5.8	白黄茶褐色	白黄茶褐色	
235	A 5	766		歴史	土師器	瓶			6.8	白黄茶褐色	白黄茶褐色	
236	A 5	54		歴史	土師器	瓶			6.2	白黄茶褐色	白黄茶褐色	
237	A 5	792		歴史	土師器	瓶			6.8	白黄茶褐色	白黄茶褐色	
238	A 5	861		歴史	土師器	瓶			5.4	白黄茶褐色	白黄茶褐色	
239	A 5	372		歴史	土師器	瓶			5.8	白黄茶褐色	白黄茶褐色	
240	A 5	389		歴史	土師器	瓶			5.5	白黄茶褐色	白黄茶褐色	
241	A 5	1223		歴史	土師器	瓶			5.6	白黄茶褐色	白黄茶褐色	
242	A 6	404		歴史	土師器	瓶			5	白黄茶褐色	白黄茶褐色	
243	A 6	1414		歴史	土師器	瓶	15	7.2	9	明黄茶褐色	明黄茶褐色	
244	A 5	378		歴史	土師器	瓶	14.2	6.2	8	明黄茶褐色	明黄茶褐色	
245	A 5	896		歴史	土師器	瓶	15.4			明黄茶褐色	明黄茶褐色	
246	A 5	76		歴史	土師器	瓶			9	明黄茶褐色	明黄茶褐色	
247		1394		歴史	土師器	瓶			9	明黄茶褐色	明黄茶褐色	
248	A 4	183		歴史	土師器	瓶			8.2	白黄茶褐色	灰黄茶褐色	
249	A 5	899		歴史	土師器	瓶			8	明黄茶褐色	明黄茶褐色	
250	A 5	360		歴史	土師器	瓶			7.8	明黄茶褐色	黑褐色	
251	A 6	1345		歴史	土師器	瓶			8	赤茶褐色	赤茶褐色	
252	A 5	873		歴史	土師器	瓶			8.6	赤茶褐色	赤茶褐色	
253	A 5	446		歴史	土師器	瓶			9	赤茶褐色	赤茶褐色	
254	A 5	1088		歴史	土師器	瓶	14.2	3.5	7.1	明黄茶褐色	明黄茶褐色	
255	A 6	1492		歴史	大鉢	盤			8	赤茶褐色	明黄茶褐色	
256	A 5	29		歴史	土師器	瓶			7.8	赤茶褐色	赤茶褐色	
257	A 5	1538		歴史	土師器	瓶	14.2	2.2	9.8	白黄茶褐色	赤茶褐色	
258	A 5	1258		歴史	土師器	瓶			10	白黄茶褐色	白黄茶褐色	
259	A 5	419		歴史	土師器	瓶	14.6			白黄茶褐色	白黄茶褐色	
260	A 5	1506		歴史	土師器	瓶	14.8			赤茶褐色	黑褐色	
261	A 5	906		歴史	土師器	瓶			9	茶褐色	黑褐色	
262	A 5	1378		歴史	土師器	瓶			9	茶褐色	黑褐色	
263	A 5	70		歴史	土師器	瓶			9	茶褐色	黑褐色	
264	A 5	466		歴史	土師器	瓶			9	茶褐色	黑褐色	
265	A 5	797		歴史	土師器	瓶				茶褐色	茶褐色	
266	A 5	1089		歴史	土師器	瓶				茶褐色	茶褐色	
267	A 5	797		歴史	土師器	瓶				茶褐色	茶褐色	
268	A 5	797		歴史	土師器	瓶				茶褐色	茶褐色	
269	A 5	797		歴史	土師器	瓶				茶褐色	茶褐色	
270	A 5	797		歴史	土師器	瓶				茶褐色	茶褐色	
271	A 5	361		歴史	土師器	瓶				茶褐色	茶褐色	
272		1560		歴史	土師器	瓶				茶褐色	茶褐色	
273	A 5	1533		歴史	土師器	瓶				茶褐色	茶褐色	
274	A 5	1523		歴史	土師器	瓶				茶褐色	茶褐色	
275	A 5	37		歴史	土師器	瓶				茶褐色	茶褐色	

第7表 歴史時代の遺物観察表（2）

件名	番号	区	取上げ	時代	種類	分類	計測値			色調		備考
							口径	高さ	底径	外面	内面	
25	276	A.6	1369	歴史	遺物器	黒				明茶褐色	茶褐色	
		A.6	1401									
	277	A.4	1500	歴史	遺物器	黒				明茶褐色	茶褐色	
	278	A.4	651	歴史	遺物器	黒				明茶褐色	明茶褐色	
	279	A.6	1419	歴史	遺物器	黒				明茶褐色	明茶褐色	
		A.6	1496									
	280	A.5	880	歴史	遺物器	黒				眞茶褐色	眞茶褐色	
	281	A.5	449	歴史	遺物器	黒				赤茶褐色	灰茶褐色	
	282	A.5	391	歴史	遺物器	黒				赤茶褐色	赤茶褐色	
	283	A.5	415	歴史	遺物器	黒				暗茶褐色	暗茶褐色	
		A.5	1512									
26	284	A.6	1403	歴史	遺物器	黒				暗茶褐色	赤茶褐色	
	285	A.5	454	歴史	遺物器	黒				暗茶褐色	灰褐色	
	286	A.4	821	歴史	遺物器	黒				白裏茶褐色	白裏茶褐色	
	287	A.4	973	歴史	遺物器	黒				茶褐色	茶褐色	
	288	A.4	1541	歴史	遺物器	黒				灰褐色	灰褐色	
	289	A.4	134	研究	遺物器	黒				灰褐色	暗茶褐色	
	290	A.4	136	研究	遺物器	黒				灰褐色	灰褐色	
	291	A.5	1277	歴史	遺物器	黒				結合茶褐色	結合茶褐色	
	292	A.5	1537	歴史	遺物器	黒				白灰褐色	白灰褐色	
	293	A.5	1277	歴史	遺物器	黒				暗褐色	暗褐色	
27	294	H.2	349	歴史	遺物器	黒				明茶褐色	明茶褐色	
	295	A.5	1213	歴史	遺物器	黒				灰褐色	灰褐色	
	296	A.5	881	歴史	遺物器	黒				灰褐色	灰褐色	
	297	A.5	904	研究	遺物器	黒				灰褐色	灰褐色	
	298	A.5	870	歴史	遺物器	黒				灰褐色	灰褐色	
	299	A.5	817	歴史	遺物器	黒				明茶褐色	明茶褐色	
	300	A.6	995	歴史	遺物器	黒				灰褐色	灰褐色	
	301	A.5	85	歴史	遺物器	黒				灰褐色	灰褐色	
	302	R.1	346	歴史	遺物器	黒				灰褐色	灰褐色	
	303	A.4	601	歴史	遺物器	黒				暗茶褐色	白茶褐色	
28	304	A.5	85	歴史	遺物器	黒				12 黄茶褐色	黄茶褐色	
	305	A.5	58	歴史						黑茶褐色	黑茶褐色	
	306	A.5	798	歴史	遺物器					二丁茶褐色	二丁茶褐色	
	306	A.5	25	歴史	遺物器					灰茶褐色	灰茶褐色	
	307		1562	歴史	遺物器					灰茶褐色	灰茶褐色	
	308	A.6	1355	歴史	遺物器					灰茶褐色	灰茶褐色	
	309	A.5	118	歴史	遺物器					灰茶褐色	灰茶褐色	
	310	A.5	16	歴史	遺物器					二丁茶褐色	二丁茶褐色	
	311	A.6	3	歴史	遺物器					二丁茶褐色	二丁茶褐色	
	312	A.6	1292	歴史	遺物器					二丁茶褐色	灰茶褐色	
313	A.4	127	歴史	遺物器					10 二丁茶褐色	二丁茶褐色		
	314	A.5	48	歴史	遺物器					12.2 赤茶褐色	灰褐色	
	315	A.5	811	歴史	遺物器					二丁茶褐色	黑褐色	
	316	A.5	15	歴史	遺物器					暗褐色	暗褐色	
	317	A.5	12	歴史	青磁器					暗褐色	暗褐色	

## 第VI章 調査のまとめ

### 第1節 繩文時代

繩文時代に関しては、後期から晩期にかけての遺構・遺物が発見された。土器に関しては、市来式土器を中心に丸尾タイプあるいは丸尾式土器と呼ばれているものや草野式土器が出土している。この市来式土器は、南九州を中心とした南部では沖縄本島にまでその分布域が確認されている。おそらくは、この段階のものと思われる台付皿形土器も1点はあるが出土しており、この器種が深鉢形とセット関係にある可能性がより高まったものと思われる。また、172のような鉢形の器形を呈するものも完形に近い状態で出土している。無文であるために詳細は不明であるが、時期や器種の組み合わせを考える上で今後重要なものとなってくるであろう。

石器では、剥片石器が認められなかったところに特徴がある。それに対し、磨石類は比較的豊富な遺物量であり、この背景を探っていくかなくてはならない。

### 第2節 歴史時代

歴史時代としては、遺構等の確認はできなかった。ただし、坏などの出土状況などから、周辺部には何らかの施設が残存している可能性も考えられよう。

さて、これらの遺物はおおむね9世紀後半から10世紀頃に絞り込められそうである。これまで、この段階の種子島の様相は発掘調査件数の少なさなどにも起因するが、あまりはっきりとは解っていない。坏・碗・甕・皿といった組み合わせが確認されたことで、これらの資料の解釈を今後は十分に検討していく必要があろう。なお、越州窯産の青磁器も出土しており、遺跡の性格は慎重に検討する余地がある。



# 図 版



松原遺跡遠景



発掘調査風景



発掘調査風景





発掘調査風景



遺物出土状況



遺物出土状況

1号集石

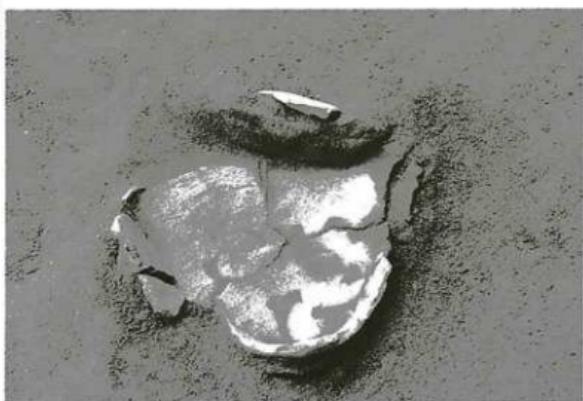


2号集石



3号集石





遗物出土状况



遗物出土状况



遗物出土状况



繩文土器



172

繩文土器



166

繩文土器

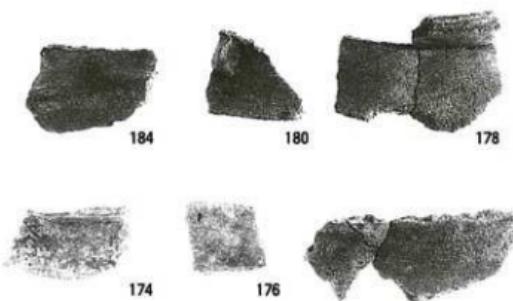


141

縄文土器



縄文土器



土師器坏



繩文土器



152

繩文土器



73



69



104



76

繩文土器



126



83



66



76



90

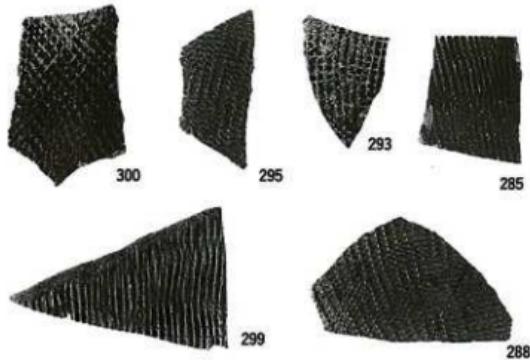


91

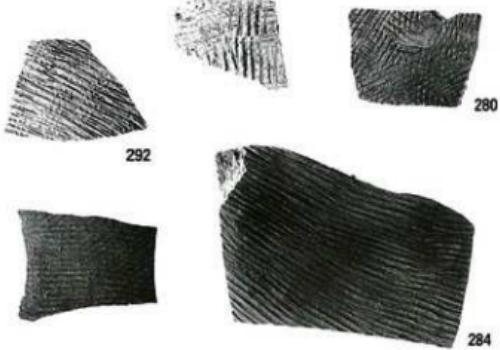
土師器坏



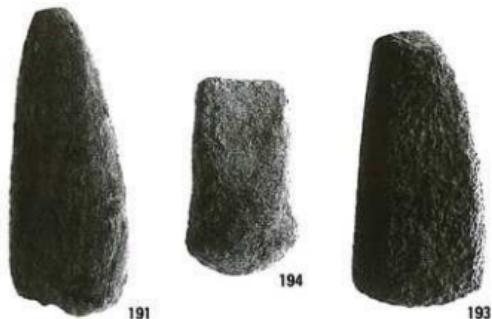
須恵器



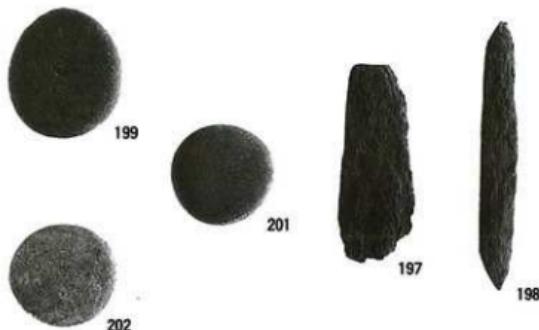
須恵器



磨製石斧



磨石・石斧



敲石



南種子町埋蔵文化財発掘調査報告書（4）

松 原 遺 跡

発行日 平成5年3月  
発行者 南種子町教育委員会  
鹿児島県熊毛郡南種子町  
中之上2793-1  
印刷所 (有)朝日印刷  
鹿児島市上荒田町854-1





